

平成 25 年度文部科学省委託事業  
「教員の資質能力向上に係る先導的取組支援事業」  
成果報告書

**ICT活用による小学校英語の授業力向上のための取組**  
**—大学と地域の学校とが連携・協働した教員養成と教員研修—**

東京学芸大学

平成 26 年 3 月

## 目次

1. 事業の概要	1
2. 現状の調査・分析と情報収集	14
2.1 教員養成課程学生に対する意識調査の分析	14
2.2 3市教員に対する意識調査の分析	17
2.3 福岡県太宰府市立太宰府西小学校「外国語活動」授業実践視察	19
2.4 宮城県仙台市立大野田小学校「外国語活動」授業実践視察	20
3. 教員養成課程学生の英語授業の体験	21
3.1 インターンシップ	21
3.2 ボランティア	35
3.3 授業参観	45
4. 指導用教材の開発	47
4.1 歌とチャンツのCD	47
4.2 歌とチャンツの冊子	47
5. 小学校英語に関する指導力の育成	48
6. 小学校教員の英語授業支援のためのWebサイトの開設	50
7. 発表・報告	51
7.1 日本教育大学協会研究集会における発表	51
7.2 教育フォーラム2013における発表	57
7.3 小学校英語教育学会愛知支部セミナーにおける発表	64
8. 「ICT活用による小学校英語の授業力向上のための取組」運営委員名簿	67

## 1. 事業の概要

本事業の特徴は、「東京学芸大学・3市連携 IT 活用コンソーシアム」が中心となって活動を行った点にある。コンソーシアムが築いてきた大学と3市教育委員会・協力学校との関わりがなければ、短期間に6つもの活動を並行して行うことは不可能であった。この特徴を生かした事業の概要の詳細については、資料1「教員の資質能力向上に係る先導的取組支援事業」事業計画書に掲載する。

別 添

(資料1)

(様式)

平成25年5月23日

## 「教員の資質能力向上に係る先導的取組支援事業」事業計画書

初等中等教育局長 布村 幸彦 殿

所在地 東京都小金井市貫井北町4-1-1

名称 国立大学法人東京学芸大学

代表者職氏名 学長 村 松 泰 子

このたび、「教員の資質能力向上に係る先導的取組支援事業」の委託を受けたいので、下記のとおり事業計画書を提出します。

## I 事業の実施団体・実施者名

団体名	氏名	職名	実施体制・分担
東京学芸大学	粕谷 恭子	教育学部教授	事業の統括責任者
	長谷川 正	教育学部教授	事業計画・事業運営管理
	伊藤 一郎	教育学部准教授	調査分析・連絡調整担当
	新藤 茂	教育実践研究支援センター教授	教材開発技術担当
	加藤 直樹	教育実践研究支援センター准教授	Web サイト構築技術担当
	樫山 淳雄	教育学部教授	Web サイト構築技術担当
	鳴海多恵子	教育学部教授	教材開発担当
	木村 守	教育学部准教授	学生参画関連事項担当
	藤原 裕	教育実践研究支援センター特命教授	教員研修等事業担当
	栗原 正治	附属世田谷小学校主幹教諭	教材開発担当
	齊藤 豊	附属世田谷小学校教諭	教材開発担当

### (文部科学省との連絡・契約担当者)

氏名	団体名・職名	所在地・電話番号・FAX・e-メール
(事務担当係) 小島 格	東京学芸大学財務施設部財務課 財務企画第二係・係長	東京都小金井市貫井北町 4-1-1 042-329-7883・042-329-7148 zkikaku2@u-gakugei.ac.jp

### (連携・協働する教育委員会・大学等の団体の連絡担当者)

氏名	団体名・職名	所在地・電話番号・FAX・e-メール
平田勇治	小金井市教育委員会・指導主事	東京都小金井市前原町 3-41-15 042-387-9877・042-383-1133 k010301@koganei-shi.jp
横山 明	小平市教育委員会・指導主事	東京都小平市小川町 2-1333 042-346-9565・042-346-9578 yokoyama@kyoiku.kodaira.ed.jp
古林香苗	国分寺市教育委員会・指導主事	東京都国分寺市光町 1-46-8 042-573-4372・042-573-4389 shidoushitsu@city.kokubunji.tokyo.jp

## Ⅱ 取組の内容

### (1) テーマ名 (①)

ICT 活用による小学校英語の授業力向上のための取組  
—大学と地域の学校とが連携・協働した教員養成と教員研修—

### (2) 取組の目的 (②)

現行の学習指導要領で小学校外国語活動が実施され、小学校5・6年生で外国語活動が必修化されているが、応急手段を講じながら対応しているのが現状である。今後開始学年の変更や教科化の検討が予測される中、現職教員の多くは小学校英語の授業運営や指導方法について全く学んでいないため、現状の改善策に加えて今後への対策も喫緊の課題となっている。

また、小学校教員養成において、英語は小学校教科となっていないため、教員養成系大学のカリキュラムも十分に対応し得るものとはなっておらず、養成段階においても早急な対応が迫られている。

英語の指導法を学んでこなかった現職教員や教員養成課程の学生などが、今後きちんと授業運営をするための方策が求められている。

このため、本事業においては、まず小学校英語教育に関してきちんと現状把握・分析を行い、次に教員養成課程学生には未経験の小学校英語活動を実感させた上で、小学校での英語指導に有効な教材を開発・提供し、教員養成課程学生および現職教員に対して、ICT を効果的に活用して小学校英語指導のための基本的なスキルの習得を実践的・体験的にできるようにし、他教科と同様に、今後自ら不安のない授業運営を可能にするような実践的指導力を育成することを目的とする。このためのメソッドを研究・開発し、実施検証することに取り組む。

### (3) 具体的内容 (③)

小学校英語教育を担うべき現職教員および教員養成課程学生に対し、研修や学習機会を通して実践的指導力を育成し円滑な授業運営を支援するための事業として、以下の各事項を実施する。

#### 1. 現状の調査・分析と情報収集

- ・大学近隣3市の英語教育の実態調査、授業用教材・教具などの情報収集
- ・教員養成段階の学生に対する外国語活動（英語教育）に関する調査・分析
- ・英語教育の先進的な取り組みをしている公立小学校の視察・情報収集  
国内で「教科としての英語」の研究開発を行う小学校の視察等。

#### 2. 教員養成課程学生の英語授業の体験

- ・教員養成段階の学生の公立学校等における英語授業見学
- ・教員養成課程学生の英語授業への計画的参画  
学校インターンシップ制度を活用し、学生が協力小学校において、英語の授業を長期的にアシストする。

### 3. 指導用教材の開発

- ・「チャンツ」の制作

現行の英語教材を補完し、より活用しやすいものを研究・開発する。特に、中学校以降の学習に支障をきたさない英語らしいリズム・イントネーションを保證する「チャンツ」（注：無旋律でリズムに乗せて英語を唱えるための音声教材）を制作・試行し実証評価する。

- ・「歌」の音源教材の制作

円滑な英語コミュニケーション能力を養うため、英語らしいリズム・イントネーションの獲得に有効な「歌」の教材について、指導者にとって教室で使いやすい音源教材を制作し、あわせて歌の楽譜や歌詞をまとめた児童用の教材を制作・試行して実証評価する。

### 4. 小学校英語に関する指導力の育成

- ・協力小学校における現職教員研修の実施（開発教材の活用、記録映像撮影等を含む）
- ・教員養成段階の学生への教育（内容の吟味、開発教材の活用）

### 5. 小学校教員の英語授業支援のための Web サイトの開設

近隣の小学校と連携し、英語の授業運営について指導及び支援する体制を作る。例えば、大学の教員等が実際に教室で授業を行い、それを活動ごとの映像として Web で配信し、実際の授業場面を見ることで活動のイメージをつかみ英語指導への負担感を軽減することを図る。

開発した教材は共有できるよう Web 等で公開するとともに、利活用の方法などについて持続的に支援できる体制を作る。

### 6. 発表・報告

本事業による研究・開発の成果について発表することにより、成果を公開する。

## （4）取組の実施方法（④）

本事業の取り組み体制とその役割分担は以下のとおりである。

東京学芸大学は、近隣 3 市（小金井市、小平市、国分寺市）の教育委員会と連携して「東京学芸大学・3 市連携 IT 活用コンソーシアム」を組織し、平成 16 年度より教育の情報化の推進に関わる活動を継続的に実施してきた。この活動基盤をもとに、3 市の協力小学校と連携し、ICT 活用と親和性の高い小学校英語教育の質的向上を図るために本事業を実施する。

本学には、小学校英語教育を専門とする研究者が教員としており、また、小学校教員養成課程に英語を専攻分野とする学生（各学年定員 10 名）が所属している。これらの人材を活かして、今後現職教員による英語の授業運営を可能にするための支援を行うとともに、各学年約 500 名の本学の小学校教員養成課程全体の学生に対しても、可能な限り小学校英語教育の体験・実践の機会を与える。また、英語を専攻する学生等に対しては、中学校英語教育への連携・接続を視野に入れて小学校英語教育を担うための教育について研究開発し、実践的な指導力を修得させる。

特に、ICTを活用した、教員間で共有可能な英語教材の開発・制作と、これを持続的に支援する体制を構築する。

事業の実施計画の主な事項については、本学と3市教育委員会とで4回の事業運営委員会（7月初め、7月、10月、3月予定）において審議する。具体的な事業推進にあたっては、3市教育委員会と各市1校程度の小学校の協力の下で、東京学芸大学が主体となって本事業を運営・実施する。運営・実施にあたっては、教育委員会・小学校・大学との円滑な協力体制を構築するための事務補佐と、ICTや教材作成に協力する技術補佐をおく。

各市教育委員会の主な役割は、市内の事業運営に適切な協力小学校の選定と、その協力小学校との連絡調整、および現職教員研修会の開催実施等を担当する。

また、各協力小学校は、小学校教員養成課程学生の小学校英語の授業見学や、学校インターンシップとして英語授業に参画を希望する学生の受け入れ、および、教室で大学教員等による授業の実施および記録撮影を行うことなどに協力する。

「（3）具体的内容」で取り上げた取組の実施方法は以下のとおりである。

#### 1. 現状の調査・分析と情報収集

大学近隣3市教育委員会の協力の下に3市（小金井市・小平市・国分寺市）の小学校における外国語活動（英語教育）の実態調査を9月に実施する。また、教員養成段階の学生に対して、本学学生の英語教育に関する理解及び教育実習生として訪れた小学校での英語教育についての調査を7月に実施し、現状の調査・分析を行う。

本事業には統計調査の研究者が参加しており、その分析を支障なく行うことができる。

また、国内で「教科としての英語」の先進的な取り組みを行っている福岡市・京都市の小学校を参観・視察し、現行の外国語活動の実態や課題を探る。東京学芸大学の4附属小学校においては、独自のカリキュラムを開発して試行的実践をしており、本事業遂行にも参加協力しているが、まだ現段階では、全国の公立小学校での実践のひな型として扱えるところまでいっていない。そのため、文部科学省作成の事例映像資料に取り上げられる福岡市や、文部科学省に近い立場の全国英語活動実践研究会の大会が何回も開催されている京都府の実践を参観し、現行の外国語活動の実態や課題を探る。

#### 2. 教員養成課程学生の小学校英語授業の体験

教員養成課程学生の小学校英語授業の体験機会を作り、実践的な学びを確保するために、3市の各市1校程度の協力小学校等を授業見学する機会を設ける。

一方で、本学の学校インターンシップ制度を活用し、秋学期に英語選修の学生及び英語選修以外の初等教育教員養成課程の学生を対象に開講している「小学校外国語活動の指導」の受講生などから希望者を募り、最大10名の学生が協力小学校において、外国語活動（英語）の授業を通じて長期的にアシストするなど小学校英語授業への計画的参画を行い、実践的な指導力の更なる育成を図る。

#### 3. 附属小学校との協働による指導用教材の開発

現状では提供されていない、授業実施に有効な質の高い「チャンツ」教材および「歌」



教材を企画・制作する。これらを試行利用して授業運営における有効性について実証評価する。

英語らしい音の流れを身につけることは、音声コミュニケーションのみならず書字コミュニケーションにおいても、相手を理解し相手に理解されるために有効である。現在配布されている「*Hi, friends!*」のデジタル教材に収録されている音源には、チャンツとしての持ち味を生かそうとするあまり、習得しても一般社会では理解されづらいものもあり、中学入学後に影響がでることが懸念される。英語らしい音の流れを反映させたチャンツ教材を企画作成し、これを試行利用することで実証評価する。

また、「*Hi, friends!*」の良さをさらに生かし、担任が授業を行いやすくするために、英語の歌を取り入れることを提案する。児童にとっては自然に英語らしい音の流れに触れることができ、英語が苦手な担任教師も音声教材を使うことで負担なく授業時間の一部を消化することができる。市販されている児童向けの英語の歌の CD や本は、教材としては編曲が冗長なことがあり、また、日本の児童のわかりやすさを考慮した歌詞カードのデザインになっていないものが多い。そこで、「歌」教材を企画・制作し、これを試行利用してみることで、実証評価する。

#### 4. 小学校英語に関する指導力の育成

3市の協力小学校を中心に現職教員に対する研修を8月、12月、3月に実施し、作成された指導用教材教具の活用法や、授業での活用事例の紹介のための研修の映像録画等を行う。また、後述する Web サイトの活用方法についても講習する。

また、本事業で作成される教材教具を教員養成段階の学生への教育で試行して評価する。

#### 5. 小学校教員の英語授業支援のための Web サイトの開設

本事業期間を通じて Web サイトを開設し、そこで作成された教材を公開するとともに、ICT を活用した授業の様子を見られるようにする。

#### 6. 発表・報告

10月に札幌市で開催される平成25年度日本教育大学協会研究集会において本事業による調査・研究等の中間報告を行い、また2月に横浜市で開催される小学校英語教育に関する学会研究会において、本事業の取組について発表し、成果を公開する。

なお、本事業経費として人件費に計上した2名の補佐員については、連携した事業を運営していく上で必要な、会議・研修会開催、学生参画などに関わる協力諸機関との十分な連絡、調査研究結果の整理等を事務補佐員が担当し、ICT活用や教材開発など専門的知見を必要とする業務の補佐を技術補佐員が担う。

### (5) 成果目標に対する指標 (⑤)

外国語活動に対する現職教員の授業準備・授業実施に対する負担感を軽減できるか、学生の不安を軽減できるか、が本取組における明確な指標である。具体的には、以下を実現することが目的である。

現職教員：研修を通して子どもの学びに寄り添った指導法についての知識を修得し、指導技術を向上させて英語指導に自信が持てるようになる。更に、質の高い教材を活用し安心して授業ができるようになる。

学 生：大学で学んだ理論や指導法を、現場で具現化し実践することができ、しっかりした外国語活動のイメージをつかんで教員となることができるようにする。

このことを目指した本事業により、以下の成果が期待できる。

- ・ 小学校英語の教授法などを未習の現職教員や教員養成系大学の学生に、英語の教授法を確実に指導し習得させ、自らが不安なく授業に臨むことができる。
- ・ ICT を活用した教材の共有化により、いつでもどこでも授業に必要な教材・コンテンツを自由に利活用し、英語の円滑な授業運営が可能となる。
- ・ 本事業で構築した Web サイトは、今後も小学校英語の授業実践を支援するサイトとして継続的運用を目指すものであり、委託期間内の運用に留まるものではない。次年度以降もできれば更に充実・発展することを目指す。
- ・ 本事業で研究開発された方法は、養成・研修を通じて小学校英語の実践的指導力を修得するためのモデルとなり、開発された教材は広く利用可能なものとなる。特に Web を利用することで、広く国内の現場を長期的にサポートできるものである。

本委託事業では実施期間の制約があるが、可能な限り平成 26 年度以降は、本事業で開発した教材等を更に改善したものを有効に活用して、自ら不安なく授業運営できるようにするために、現職教員研修や教員養成段階の学生への教育の更なる改善を図りたい。開発制作された教材は、実証評価を踏まえた改善を行ったものを広く学校での利用に供する。また、教員養成課程学生の英語授業への計画的参画の継続・拡大により実践的指導力獲得を一層進めたい。更に、小学校教員の英語授業支援のための体制整備については、継続的課題として取り組みたい。

(6) 事業計画 (6)

日程	事業の内容
平成 25 年	
7 月	第 1 回事業運営委員会(事業方針確定)
7 月～	事務補佐員雇用開始
7 月～	技術補佐員雇用開始
7 月～	チャンツ制作
7 月～	英語の歌 CD 素材作成
7 月中旬	第 2 回事業運営委員会(教員研修会方針確定及び調査方針確定)
7 月下旬	教員養成段階の学生に対する調査
8 月～	教員養成段階の学生に対する調査分析
8 月下旬	第 1 回教員研修会(試作チャンツ及び英語の歌 CD 素材試行)
9 月～	3 市での英語実態調査、授業用教材・教具の情報収集及び分析
9 月	英語教育の先進的取り組みについての視察・情報収集(第 1 回)
10 月上旬	第 3 回事業運営委員会(インターンシップ協議)
10 月～	インターンシップ制度による 3 市アシスト
10 月～	英語の歌編曲・歌唱及び録音
10 月～	HP 制作(デザインおよびコンテンツ)
10 月	英語実態調査結果分析成果発表
11 月	教員養成段階の学生による公立学校授業見学
12 月下旬	第 2 回教員研修会(記録映像撮影)
平成 26 年	
1 月上旬	英語教育の先進的取り組みについての視察・情報収集(第 2 回)
2 月中旬	作成教材成果発表
3 月上旬	第 3 回教員研修会(作成教材公開)
3 月下旬	HP (全作成教材及び研修記録映像、調査研究成果を含む)公開
3 月下旬	第 4 回事業運営委員会(報告・総括)

## (7) 過去の実績 (⑦)

東京学芸大学は、小金井市・小平市・国分寺市の近隣3市教育委員会・学校と連携協力して、教育の情報化に関わる課題に取り組むために、「東京学芸大学・3市連携IT活用コンソーシアム」を組織して、平成16年度より活動を継続して実施してきた。

その目的は、

- ① 3市及びその周辺地域の公立学校における情報通信技術（IT）を用いた教育の推進
- ② 東京学芸大学における情報教育に関する教育実践研究の推進
- ③ 3市の教員と東京学芸大学学生に対しITを活用した実践的指導力の育成を図ることなど、教育の情報化を推進し、広く学校教育の発展に寄与することとしている。

学校の現職教員等に対する教育の情報化や情報モラル教育に関する研修会等の開催、学校におけるICTを活用した授業計画策定に関する支援や機器導入の技術支援、情報教育関連の環境整備等を行っている。教員の授業実践においては、機器操作の支援や授業記録作成に学生も参画し、実践的な学習機会を提供してきた。

コンソーシアムの活動実績として、平成16年度は文部科学省の委託事業「教育用コンテンツの活用・高度化事業」を実施、平成17年度は東京都教育委員会「情報モラル教育実践モデル校」としての実践授業の推進、平成18年度には文部科学省委嘱事業「子どもの安全に関する情報の効果的な共有システムに関する調査研究」なども事業展開した。また、平成18～22年度は現職教員対象の夏季研修会を開催するなど、ICTを効果的に活用した授業づくりとその実践にも取り組んでいる。

更に、平成20年から現在まで5回の「教育フォーラム」をコンソーシアムが主催し、教育の情報化に関わる講演や研修成果報告を広く現職教員や教員養成課程学生等を対象に行ったほか、国際的な発表の場での現職教員による授業実践報告、海外教員との国際交流などにも協力・支援するなど、大学と教育委員会とが連携して教員の指導力向上のための活動に寄与している。

一方で、本学の小学校英語教育を専門とする研究者は、小学校英語教育学会の副会長を務め、免許更新講習や公開講座で担任教師を対象に外国語活動の指導法の講座を開講している。平成19年より長野県総合教育センター、平成20年より青森県総合教育センター・埼玉県総合教育センター、平成19年より神奈川県伊勢原市、平成20年より広島県三次市等で教育委員会の依頼を受け、教員研修や研究協力者として公開授業研究会の指導にあたっている。神奈川県平塚市では平成21年より英語教育アドバイザーとして各校を回って模範授業と教員研修を行い、担任教師がひとりで外国語活動の授業を行うための「授業プラン」を策定するなどの活動を行っている。

## (8) 大学と教育委員会間等における個人情報の取扱い (⑧)

本事業内で行われる各市における全ての調査は、すべて3市教育委員会の協力を得て東京学芸大学が実施するとともに、収集した情報は適切に管理する。また、個人を対象に実施した調査については、本事業の取組みにのみ利用することとし、調査結果の公表などにおいても、調査協力者のプライバシーに十分配慮する。

(9) 補足資料 (9)

補足資料 1 : 本取り組み 概念図

補足資料 2 : 東京学芸大学・3市連携 IT 活用コンソーシアム 概念図

# ICT活用による小学校英語の授業力向上のための取組

—大学と地域の学校とが連携・協働した教員養成と教員研修—

東京学芸大学



東京学芸大学・3市連携  
IT活用コンソーシアム

3市 教育委員会

(小金井・小平・国分寺)



- ・教育実践活動の支援
- ・学校間交流の促進
- ・教材の共有化支援

・小学校英語の教授法などを未習の  
現職教員や教員養成大学の学生に  
対する英語授業力向上策の確立

・ICTを活用した教材の開発・共有化

大学教員

- ・現職教員研修
- ・学生指導
- ・教材開発



学生  
指導

教材研究・開発

現職教員研修・支援

英語授業見学

学校インターンシップ(単位化)

小学校教員養成課程学生

- ・授業サポート  
英語選修学生を中心に
- ・教材開発サポート



協力小学校

小金井市, 小平市, 国分寺市 小学校各1校

現職教員

- ・英語授業実践
- ・研究授業実施
- ・学生の受け入れ  
ほか



# 東京学芸大学・3市連携IT活用コンソーシアム

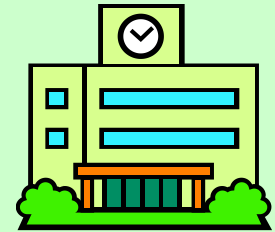
東京学芸大学と3市教育委員会との連携による教育実践研究推進

東京学芸大学



近隣 教育委員会

(小金井・小平・国分寺)



地域連携

東京学芸大学・3市連携  
IT活用コンソーシアム

●大学の持つ教育  
リソースの提供

- ◇ 現職教員研修
- ◇ 教育内容支援
- ◇ 技術支援

●大学院生・学生  
の実践的教育研究

●各自治体の教育  
力向上プラン

●各種事業実施

デジタルコンテンツ活用(文科省委託), 情報モラル(東京都の研究指定校), ITを活用した子どもの安全情報共有(文科省委嘱)等



研究協力学校

《研究協力学校》

小金井市, 国分寺市, 小平市

各市の小学校・中学校

## 2. 現状の調査・分析と情報収集

### 2.1 教員養成課程学生に対する意識調査の分析

本調査は本事業の一環として小学校教員養成課程に在籍する4年生の学生に対して、外国語活動に関する知識や準備の状況、教育実習での外国語活動の体験について尋ねたものである。対象としたのは4年時の応用実習を終えた学生で、調査は副免(所属する選修以外の免許)のための講習会で行われた。このため学生の所属や意識に若干の偏りがある。2013年7月に実施し、216名の回答が得られた。

#### (1) 実習での外国語活動

教育実習時にはほぼ7割の学生が外国語活動の授業を参観している。外国語活動が行われているのは5、6年次であることから、ほぼ妥当な数字であろう。しかし、外国語活動の授業を実施した学生は基礎実習においても応用実習においてもほぼ1割であって、非常に少ない。応用実習における外国語活動の授業を実施や参観と基礎実習における授業の実施と参観が独立性の検証をクロス表を使って行ってみた。

	基礎実習 授業	基礎実習 参観のみ	基礎実習 無体験	計
応用実習授業	7	9	2	18
応用実習参観のみ	5	65	52	122
応用実習無体験	3	39	19	61
計	15	113	73	201

表1 応用実習および基礎実習での外国語活動体験のクロス表

表の横軸は応用実習での外国語活動の参加の仕方を3通りに分けて左から基礎実習で外国語活動の授業を実施した人の人数、基礎実習で外国語活動の授業を参観だけして授業は実施しなかった人の人数、基礎実習で外国語活動の授業参観もせず授業実施もしなかった人の人数を表す。縦軸は応用実習での外国語活動の参加の仕方を3通りに分けて上から応用実習で外国語活動の授業を実施した人の人数、応用実習で外国語活動の授業を参観だけして授業は実施しなかった人の人数、応用実習で外国語活動の授業参観もせず授業実施もしなかった人の人数を表す(無回答があるため、総数はアンケート回答者より少ない)。その交わった箇所に書かれている人数は縦軸と横軸の想法に該当する人数である。このクロス表をカイ2乗検定にかけるとp値が $10^{-6}$ で有意である。すなわち応用実習で外国語活動の授業を実施した学生というのは基礎実習においても実施している場合が多い。その2つの実習の両方で授業を行った7名の選修は保健体育、国際教育、理科2名、英語3名と、英語選修の学生への偏重が見られた。このように小学校における外国語活動は実習の学生に普遍的に行わせるものとは考えられておらず、専門性も持った数少ない学生行わせるものと考えられているようである。



## (2) 「小学校外国語活動」に関する知識及び準備状況

外国語活動が必修であることや、5、6年生に導入されていることは9割を超える学生が知っている。しかしながら週1時間と定められていることを知っている学生は7割である。教材についても文部科学省から無償で配布されていることを知っている学生も約7割と少ない。外国語活動の実態については未だ十分には浸透していない。また、担任主導で行なわれるか、ALT主導かという問いに対して担任主導と正確に答えた学生は約6割と非常に少ない。

小学校の教員の「外国語活動」のための準備として、本学では授業科目「小学校外国語活動の指導」を選択科目として開講している。この科目を履修した、もしくは履修していると答えた学生は全体の約25%と非常に少ない。また、インターネットを通じて外国語活動について調べた学生を約25%、TV・新聞などで授業の様子を見たことがある学生も4割にとどまっている。

図1は回答者を「①応用実習もしくは基礎実習で外国語活動の授業を実施した人」、「②応用実習もしくは基礎実習で外国語活動の授業を参観だけして授業は実施しなかった人」、「③応用実習でも基礎実習でも外国語活動の授業参観もせず授業実施もしなかった人」の2種類に分類して、その各々の小学校外国語活動に対する知識(Q3.-1～Q3.-5)や準備(Q4.-2,Q4.-3)についてどのような傾向があるか調べたものである。肯定的な回答数で比較している。概して①>②>③の関係がある。実習で授業を行ったり参観することで知識を身に付け、準備も進められるということであろう。

しかしながら、外国語活動が担任主導で行うことになっているという知識に関しては①>③>②の関係になっている。すなわち、外国語活動の授業を参観した学生程、ALT主導と思い込む傾向がある。自治体によっては外国語活動の全ての時間をALTに頼っているという実態が伺える。

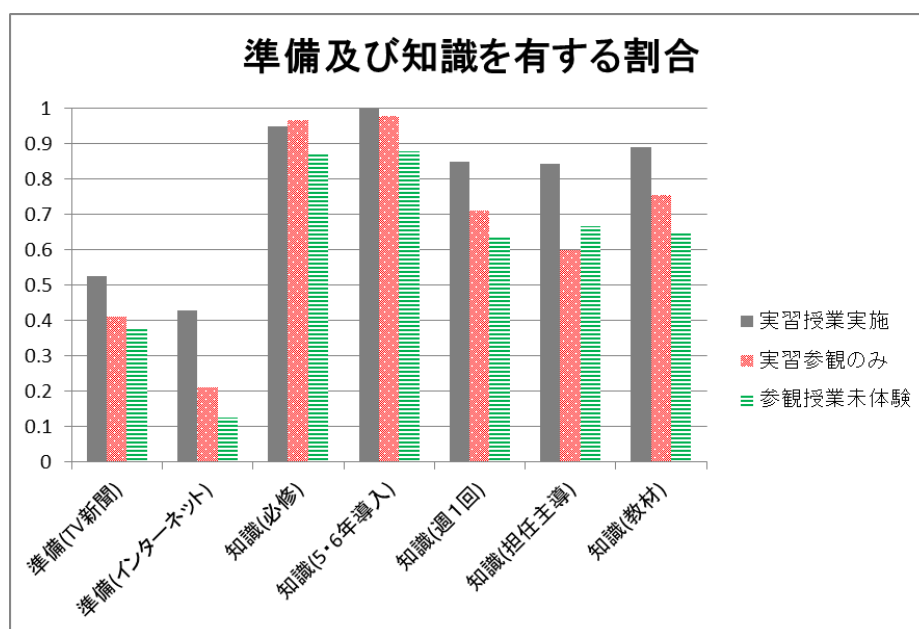


図1 実習体験ごとの外国語活動の準備と知識を有する割合

### (3) まとめ

東京学芸大学・3市連携 IT 活用コンソーシアムの枠組みを利用し、文部科学省の「教員の資質能力向上に係る先導的取組支援事業」の一環として、教員養成段階の学生の意識を探り必要な支援を供給するための外国語活動（英語教育）に関する意識調査の分析を行った。その結果、教育実習での外国語活動の体験が学生の外国語活動の知識獲得や準備に大きな影響を持つことが示された。普段は外国語を使っていない担任が主導して行うことになっている小学校における外国語活動だが、ALT やボランティアの役割や教材の問題など解決すべき課題も数多く残されている。情報機器の活用が果たす役割が多いと思われる。

(新藤茂)

### 文献

- [1] 粕谷恭子、長谷川正、伊藤一郎、木村守、新藤茂、櫛山淳雄、加藤直樹、鳴海多恵子、藤原裕、栗原正治、斎藤豊、平田勇治、横山明、古林香苗：「ICT を活用した外国語活動の授業づくり支援(1) ~教員養成糧学生に対する意識調査の分析~、東京学芸大学教育実践研究支援センター紀要第 10 集 2014 年印刷中

## 2.2 3市教員に対する意識調査の分析

本調査は本事業の一環として平成25年9月に行われたものである。小金井市、小平市、国分寺市の教育委員会からそれぞれの小学校に送られ、小金井市124名、小平市252名、国分寺151名の計527名の教員から回答が寄せられた。

### (1) 「外国語活動」の指導や研修の経験

「外国語活動」の指導経験（ALT活用や必修化以前の経験も含む）があると答えた教員は全体の69%（481人中334人）となっており、小学校におけるほとんどの教員が「外国語活動」の指導を行っている。しかし、その指導経験年数をみると1年、2年の教員が多く、平成23年度に「外国語活動」が必修化されてから指導を始めた教員が多いことがわかる。

また「外国語活動」に関する研修については全体の86%（444人）の教員が研修を受けたことがあると答えているが、そのうち半分が2～5回の研修回数にとどまっている。参加した研修の内容については『具体的な活動について理解を図ったり、体験したりした』が最も多く、『「外国語活動」を行う際に指導者が使う外国語（英語）について発声練習を行ったり、その使い方について理解を図ったりした』が最も少なかった。

### (2) 授業実践での課題

『「外国語活動」の授業を計画したり実施したりするうえで、もっと自分ができたらよいと思う事柄があるか、それは何か』という質問に対しては、『英会話力、正しい発音』という意見が多く、また「外国語活動」の授業を実践するうえで困っていることがあるか、それは何かという質問についても『正しい発音ができない』や『ALTとの会話や連携がうまくできない』という意見が多く、教員の「外国語活動」に対する大きな不安要素として、基礎的な英語及び英会話の知識が少ないことや、正しい発音ができないことがあげられる(図参照)。これは、教員側のニーズと研修内容とが必ずしも一致していないことを意味している。このことは、「外国語活動」に関する研修として今後どのような研修が必要だと思ふかの質問に対して『教員の語学力向上のための研修』と回答した教員が多くいたことから読み取ることができる。

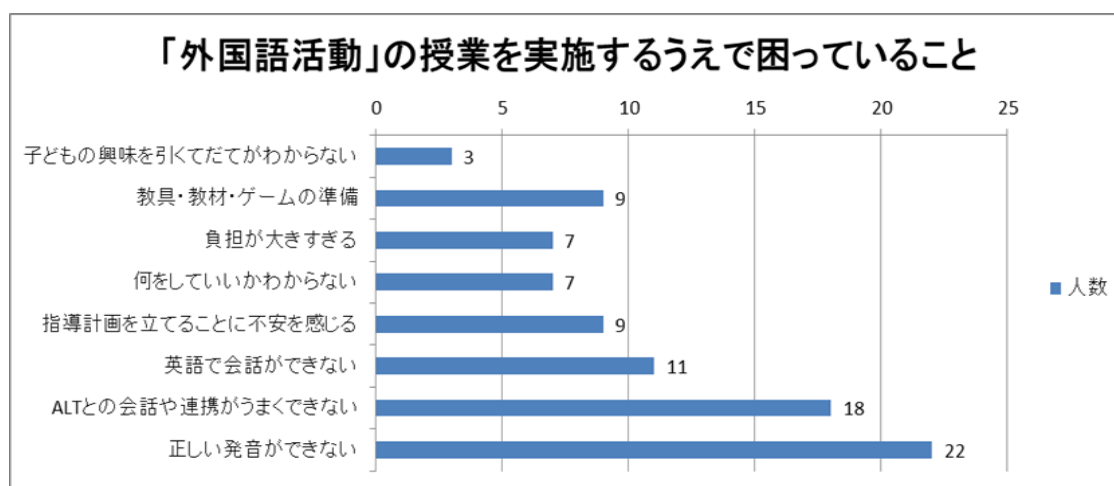


図2 「外国語活動」の授業を実施するうえで困っていること

また、「外国語活動」の授業で使う教材や教具を適切に選ぶ自信があるかの質問に対して約 80% の教員が『そう思わない』または『まったくそう思わない』と答えていた。これも、自身が英語に対して知識を持っていない、発音に自信がないという不安が影響しているものだと考えられる。

### (3) 指導力向上に向けて

次に、「外国語活動」の指導力を付けるために何かしているか、それは何かという質問に対しては 394 人(79%)もの教員が特に何もしていないと回答している。その理由については『忙しく、時間的余裕がない』、という意見が大半を占めていて、他の授業の準備、日々の校務がある中で、新たに必修としてくわえられた「外国語活動」になかなか割く時間がないというのは間違いないだろう。また、『英会話に行きたいが金銭的にも時間的にも行くことができない』という意見も見受けられた。

『小学校外国語活動』にわからない点や要望について」の質問については、『ALT の時間を増やしてほしい』や『外国語を専科にしてほしい』という意見が 17 件あり、初めて英語に触れる小学生にたいしては正しい発音を、しっかりとしたネイティブや専科の先生に行ってもらったほうがよいという考えを持つ教員が多くいることがわかった。学習指導要領において、「外国語活動」の目標は異文化理解、コミュニケーション力の向上だけではなく、外国語の表現や発音に慣れ親しむことが柱として挙げられている。それにもかかわらず、英語に専門性のない教員が授業を行うことに疑問を感じる教員が多いのはある意味で当然ではあろう。

### (4) まとめ

アンケートから、自身の基礎的な英語及び英会話の知識、正しい発音に自信のないため、「外国語活動」の授業に対して抵抗感があり、どのように教材を準備してよいかわからない、という教員が多くいることがわかった。そのような教員を補助するような制度や研修、教材が求められる。例えば、ALT に「外国語活動」の授業補助をしてもらうだけでなく、授業・教材作成のアドバイスをもらったりできるようにするなど、教員が授業を計画・実施しやすい環境を作ることが大切である。また、「外国語活動」では、原則英語をあつかうと学習指導要領において明記されているので、教員養成課程においても、英語指導に関する必修教科を増やし、教員の基礎的な英語及び英会話の知識、正しい発音のスキルを段階的に向上させていく必要もあろう。

「外国語活動」において ICT を活用した教材は非常に有効だと考えられる。例えば、電子黒板などのデジタルコンテンツを使えば、正しい発音を画面の単語をタッチしただけで児童に聞かせることができるし、児童たちの興味も大いに引くことができる。ICT を活用した教材が教員たちの「外国語活動」に対する抵抗感を軽減できると思われる。

### (5) 謝辞

データ入力や整理にご協力いただいた本学 4 年の藤田真人君、赤津慎弥君に感謝いたします。

(新藤茂)

## 2.3 福岡県太宰府市立太宰府西小学校「外国語活動」授業実践視察

「外国語活動」として英語教育の先進的な取り組みをしている公立小学校を本プロジェクトとして視察・情報収集する1校目として、成25年11月4日（火）に太宰府市立太宰府西小学校の「外国語活動」の授業を参観した。

校内に古墳のある太宰府西小学校を訪問したのは、東京学芸大学の粕谷恭子、伊藤一郎、木村守、鳴海多恵子、小平市立第十四小学校の村松守男、小平市立第四小学校の島村雄次郎の6名である。永富謙一郎校長に迎えられ、あいさつを交わしたのち、2年生と6年生の授業を参観した。

2年生の授業は特に印象的であった。2年生でも十分に数字の表現ができ、定型表現を繰り返すことで、英語によるコミュニケーションの取り方を身に付け、授業として成立することが理解出来た。

幼児が日常生活の必要性から言語を覚えていくのに比べ、学校の中で学習として言語を覚える事には負担感があるのではないかと、という疑問も若干あったがたのしそうに英語のやりとりが進んでいて、外国語の音に対しても親しんでいると感じた。

授業の流れや子どもたちの様子から、授業はほぼ毎時間同じような流れで実施されているものと思ったが、それによって子どもたちが安心して取り組んでいたのかもしれない。ただし、パターン化することによって、単純な反復に陥ったり、興味関心が低下したりすることを避けなければならないが、今回の授業では電子ボードの画像のリズミカルな動きが、子どもたちの興味関心を維持するのに効果的に活用されていた。

画像については授業参観した場所によるのかもしれないが、イラストの大きさや表現が適切であったのか、もっと魅力的な表現であったり、わかりやすくする必要も感じた。

プロジェクターと電子ボードが常設されている教室があることは、授業の準備等の点で、よい環境であったと思う。

6年生の授業については、子ども達がよく知っている物語なので、発問や絵カードの活用方法など、さらに工夫があってもよかったのでは、と思った。電子ボードの機能ももっと有効に生かす手立てを考えることも必要であろう。

授業参観後、浦田貴子教頭より福岡教育センターにおられた時のICT機器を活用した授業づくりについてお話を伺う機会をもてたことも大きな収穫であった。

(鳴海多恵子)

## 2.4 宮城県仙台市立大野田小学校「外国語活動」授業実践視察

「外国語活動」として英語教育の先進的な取り組みをしている公立小学校を、本プロジェクトとして視察・情報収集する2校目として、平成25年12月12日（木）に仙台市立大野田小学校の「外国語活動」の授業を参観した。

校木のメタセコイアの並木がそびえる大野田小学校を訪問したのは、東京学芸大学の粕谷恭子、新藤茂、藤原裕、箱守知己、および伊藤一郎の5名である。飯坂新校長に迎えられ、大野田遺跡の上に建つ学校の状況などをお聞きした後、6年の3クラスそれぞれでの授業を参観した。

今回参観した3時間の授業者は栄利滋人教諭で、平成21年度には「外国の小学校とのインターネット交流を生かした教育実践」で第4回教育実践・宮城教育大学賞を受賞されるなど、「外国語活動」に積極的に取り組まれている教員であり、理科専科の時間を利用した3クラス担当である。

各教室での授業用ICT環境は、教員の操作はiPad、提示には50インチ大型テレビとApple TVである。栄利教諭の授業の特色は、児童に英語として聞かせるのは主にネイティブの発するスピーカーからの音声であり、手にしたiPadを操作してタイミング良く聞かせることが可能になっていることである。授業進行に関する児童への口頭指示などは、むしろ日本語できちんと伝えている。「英語の発音に自信がない」という教員が多いという調査結果があるが、それに対する一つの対応策として非常に有効な方法と考えられる。



栄利教諭は、英語教材は発音して聞かせることが必須で、自分でできるなら話す方が早いだろうが、ALTの代りとしてこの方法を利用しているとしている。音声ファイルを再生する際のタイムラグを減らすための工夫もきちんとしていて、操作後直ちに音が出るようになっている。また、速さも、ネイティブなものと同様とゆっくりなものと同様準備したいとしている。実際に使われている音声は、同教諭がネット交流をしているボストンの同年齢の子どもたちや先生のものである。

参観した授業では、時刻について扱うテーマに“get up at ~”や“go to bed at ~”など子どもたちの生活に関わるものを取り上げられ、それを自分自身で表現するだけでなく、ボストンの小学生のそれに対するビデオレターを見聞きして、自分たちと比較してみるなどの試みもあった。

さらに、授業で利用されるコンテンツが数多く自作されており、Apple社のKeynoteというプレゼン用ソフトで作成されていて、参観した授業においても多数利用されていた。

(伊藤一郎)



### 3. 教員養成課程学生の英語授業の体験

#### 3.1 インターンシップ

学校インターンシップ制度は、60 時間学校で実習を行うことで単位を認定する東京学芸大学の取組である。本事業でもこの枠組みを利用して国分寺市立第四小学校に協力を依頼し、学生を派遣することとした。募集時には 10 人の学生が応募したが、小学校では週一日しか外国語活動の授業がなく、その曜日に大学の授業が入っている学生は 60 時間を確保するのが不可能で、1 名の学生のみが参加した。参加できた学生は、初等教育教員養成課程英語選修の 3 年に在学している。

実習日誌を資料 2 として掲載する。この資料を通して現場で起こっていることをじかに参観し参与することによる学生の意識の高まりや課題発見のプロセスを追うことができる。

(木村守)

(資料2)

## 学校インターンシップ実習日誌 (様式3)

書類の流れ 学生→大学

課程・専攻 (選修)	初等英語	氏名	安藤 真弓
第 1 日目	25 年 11 月 13 日 (水)		
時間帯	(時間帯は 10:00~11:00 のように記入) 内容, 学んだこと, 気付いたこと, 疑問点等		
8:00~ 17:00	1 時間目 : 5-1 外国語活動 (What's this ? It's~) 2 時間目 : 5-2 同上 3 時間目 : 5-3 同上 4 時間目 : 6-3 外国語活動 (What time do you~? I~at : ) 5 時間目 : 4-4 研究授業 (Do you like~?)		
<p>今日は初めて公立校の外国語活動を見学させて頂きました。ALT の先生との連携や子ども達の授業内での様子など、初めて見るものばかりで、とても新鮮でした。全体的に子どもたちは意欲的に外国語活動に取り組んでいる姿が多く、改めて小学校英語の指導の大切さ、責任を感じました。特に「英語なんて興味ないよ」とつぶやく男の子が印象的で、この子の為に何ができるのか、実践の中で学ばせて頂きたいと強く思いました。研究授業もすごく勉強になり、他では学べない素晴らしい時間でした。ありがとうございました！</p>			
			確認印



# 学校インターンシップ実習日誌（様式3）

書類の流れ 学生→大学

課程・専攻（選修）	初等英語	氏名	安藤 真弓		
第 2 日目	25 年 11 月 14 日（木）				
時間帯	（時間帯は 10:00～11:00 のように記入）内容，学んだこと，気付いたこと，疑問点等				
8 : 00～ 12 : 00	<p>1 時間目 : 4-1 場所の名前 ex) park, train station</p> <p>2 時間目 : 6-4 What time is it ?</p> <p>3 時間目 : 6-1 同上</p> <p>4 時間目 : 6-3 同上</p> <hr/> <p>今日は 6 年生のクラスの授業が多く、クラスごとにカラーがあるなど感じました。クラスごとに少しテンポを変えてみたり、練習を増やすなど授業の様子をよく見て次の授業に活かしていくことが求められるのだと感じました。また、リスニング問題を行う場合、できている子とそうでない子にバラつきが見られたため、子ども様子（例えば「もう一回聞きたい」という思いに気づくこと）をよく見て対応すること、またリスニングの前に ALT の先生と連携してトレーニングを多く行うことなどの工夫があると、子どもたちも自信をもって取り組むことができるのかもしれないと思いました。</p> <p><b>T1</b> として、先生の気付きを即、授業に生かせるといいですね！ <b>once more, Please!</b> の一言で、ALT はきっともう一度繰り返してくれますから…</p>				
			<table border="1"> <tr> <td>確認印</td> </tr> <tr> <td style="height: 50px;"></td> </tr> </table>	確認印	
確認印					

# 学校インターンシップ実習日誌（様式3）

書類の流れ 学生→大学

課程・専攻（選修）	初等英語	氏名	安藤 真弓
第 3 日目	25 年 11 月 18 日（月）		
時間帯	（時間帯は 10:00～11:00 のように記入）内容，学んだこと，気付いたこと，疑問点等		
8 : 00～ 12 : 00	<p>1 時間目：1-4 歌中心 Hello how are you ? 、 head,shoulder …</p> <p>2 時間目：3-2 What do you like ? ゲーム</p> <p>3 時間目：双葉 What color do you like ? カラーバスケット</p> <p>4 時間目：4-2 What are you going ? カルタ、伝言ゲーム</p>		
	<p>今日は初めての双葉クラスの外国語の授業を見学させて頂きました。子ども達は興味深々で、褒められるとすごく嬉しそうな表情を浮かべていました。先生方が常に子どもと目線を合わせて話している姿が印象的でした。特別支援教育の中でも、体や口を動かしながらできる外国語の活動は子どもたちが楽しんでできるものの一つなのかなと感じました。また、3-2 や 4-2 での英語ゲームでは、ルールを分かっていないまま進めてしまうと子どもたちが混乱し、泣いてしまう場合もあるのだと痛感しました。ゲームの中で必然的に英語を使い、英語がゲームに負けない工夫を考えたいです。</p>		
			確認印

# 学校インターンシップ実習日誌（様式3）

書類の流れ 学生→大学

課程・専攻（選修）	初等英語	氏名	安藤 真弓
第 4 日目	25 年 11 月 28 日（木）		
時間帯  8 : 00 ~  12 : 00	（時間帯は 10:00～11:00 のように記入）内容，学んだこと，気付いたこと，疑問点等  1 時間目：5-1 What's this? 3 ヒントクイズ 2 時間目：6-4 What time do you go to bed? スピーチづくり 3 時間目：打ち合わせ 4 時間目：6-3 What time do you ~? スピーチづくり  <hr/> <p style="text-align: center;">今日から 6 年生の授業で時間を使った表現でのスピーチづくりが始まりました。最初は見本が黒板に 1 枚貼られ、それを児童が写すという形でしたが、児童は写すことにいっぱいいっぱいになってしまい、第一の目標である英語を話すことにまで手がまわらなくなってしまいました。めあてを忘れずそのめあてに達するために教材をつくることの大切さを感じました。また、次の授業では一人一枚ワークシートを渡し、スピーチ練習の時間が持てたので改善していくことも大切だと思いました。文を「カタカナで書いていいよ（発音をカタカナで）」という授業を初めて見させて頂きました。効果や課題的も考えていきたいです。</p>		
			確認印 <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%; margin-top: 5px;"></div>

# 学校インターンシップ実習日誌（様式3）

書類の流れ 学生→大学

課程・専攻（選修）	初等英語	氏名	安藤 真弓
第 5 日目	25 年 12 月 2 日（月）		
時間帯	（時間帯は 10:00～11:00 のように記入）内容，学んだこと，気付いたこと，疑問点等		
8 : 00～ 12 : 00	<p>1 時間目 : 5-3 What subject do you like ?</p> <p>2 時間目 : 5-1 音楽 星に願いを☆</p> <p>3 時間目 : 2-2 Animals</p> <p>4 時間目 : 打ち合わせ What subject do you study ?</p>		
<p>今日は児童実態把握のために初めて 5-1 の音楽を参観させて頂きました。子どもたちはとても仲が良く、歌詞を読む際「ぼくが読む！」と積極的に授業に参加している姿が印象的でした。また男児の人数が多く元気いっぱいである反面、女兒はまじめで大人しい印象でした。今後も英語や他教科の参観で児童に近づけていければと思います。また、2-2 では動物の名前を<a href="#">あつかいました。より必然的に動物の名前を扱うために、シルエットゲームなどをすれば「なんだろう？」の心が生まれ、より楽しく学べるのでは</a>と思いました。5-2 ではインタビューゲームで「別に英語言わなくてもゲームできるよ」と言っている児童も見られ、ゲームが英語に勝っているのを感じました。どうすればよいか考えていきたいです。</p> <p>「何だろう？」の心について、粕谷先生は「言霊」の入った言葉を発話させるとおっしゃっていました。ゲームを楽しむ中で「英語を言っている<a href="#">カッコイイ自分</a>」に気付かせられるとよいのですが…。</p>			
			確認印

# 学校インターンシップ実習日誌（様式3）

書類の流れ 学生→大学

課程・専攻（選修）	初等英語	氏名	安藤 真弓
第 6 日目	25 年 12 月 4 日（水）		
時間帯	（時間帯は 10:00～11:00 のように記入）内容，学んだこと，気付いたこと，疑問点等		
8 : 00～ 17 : 00	<p>1 時間目 : 6-4 What do you want to be ?</p> <p>2 時間目 : 3-2 What sports do you like ?</p> <p>3 時間目 : DVD 文科省のビデオで学習</p> <p>4 時間目 : 5-1 国語 : 気持ちを伝える言葉</p> <p>5 時間目 : 5-4 What subject do you like ?</p>		
<p>今日は改めて<u>子どもの聞く力のすごさと児童実態の把握の大切さ</u>を感じました。聞く能力に関しては、3-2 の授業でジュース先生の発音をそっくりにならねて発音できて、やはり低学年、中学年でも英語の授業は必要であり、かつ発音に特すると低学年から始めて多くのインプットを与えてあげたいなと感じました。また、児童実態に関しては福澤先生のクラス運営を見学させて頂き、一人一人をよく知っているからこそ指示がよく通り、発問も工夫できるのだと思いました。例えば姿勢を指導する時、「背すじがまがってるよ」と悪い点を言うのではなく、「〇〇さんの姿勢すばらしいですね」と児童をほめることで全体に指導が行き渡る様子がすごくよく分かりました。私も一人一人をよく見守り、よい点を見つけほめることを忘れずにしたいです。</p> <p>小学校では、学年が下がるにつけ、聞く力の素晴らしさを感じますね。彼らはその良さを感じてはいないので、教師がたくさん誉めることで英語に対する意欲や自信アップにつなげたいです。児童の実態については、その通り！です。</p>			
			確認印

# 学校インターンシップ実習日誌（様式3）

書類の流れ 学生→大学

課程・専攻（選修）	初等英語	氏名	安藤 真弓
第 7 日目	25 年 12 月 12 日（木）		
時間帯  8 : 00～  12 : 00	（時間帯は 10:00～11:00 のように記入）内容，学んだこと，気付いたこと，疑問点等  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5-2 Listening</li> <li>・ 6-4 What do you want to be ?</li> <li>・ 双葉 クリスマス・メイシー</li> <li>・ 6-3 What do you want to be ?</li> </ul> <hr style="border: 1px solid black; margin: 10px 0;"/> <p>今日は、英語の音と意味（絵や動画）の合致のためには、英語のアニメもすごく有効だと感じました。双葉学級でクリスマス関するアニメを見た時、子どもたちが最初は「日本語で見ようよ」と言っていたのが徐々にくぎづけになり、笑ったりしている様子が印象的でした。英語だけで理解するのは難しいけれど、絵と一緒に追っていくことで音と意味の結びつきがスムーズに行われるのだろうと感じました。特別支援学級だけでなく、普段の授業の中でも 5～10 分ほど、毎回そのような時間があってもよいなと思います。“英語”の雰囲気も創れて一石二鳥？かもしれません。</p>		
			確認印  <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 50px; margin: 0 auto;"></div>

# 学校インターンシップ実習日誌（様式3）

書類の流れ 学生→大学

課程・専攻（選修）	初等英語	氏名	安藤 真弓
第 8 日目	25 年 12 月 16 日（月）		
時間帯	（時間帯は 10:00～11:00 のように記入）内容，学んだこと，気付いたこと，疑問点等		
8 : 00～ 12 : 00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2-4 animals</li> <li>・ 4-3 Where are you going ?</li> <li>・ 5-1 What subject do you study ?</li> <li>・ 4-2 Where are you going ?</li> </ul>		
<p>今日は初めての T1 での授業を 5-1 でやらせて頂きました。実際に前に立ってみて強く感じたのは、日本語と英語のバランスがすごく難しいという点です。T1 は ALT の発音をただ日本語に直して児童に伝えるのが役割ではなく、ALT の英語を児童が理解できているかどうか、またどこが分かっているのかを把握し、それをどれだけ日本語を使わず、支援することができるかだと思います。ただ、前に立ってしまうと「分かってほしい」という思いが先走ってすぐ日本語を使ってしまっていた場面もあり、今後改めていく必要があると反省しました。T1、T2 のよりよい授業展開についてさらに考えていきたいと思います。</p>			

# 学校インターンシップ実習日誌（様式3）

書類の流れ 学生→大学

課程・専攻（選修）	初等英語	氏名	安藤 真弓
第 9 日目	26 年 1 月 16 日（木）		
時間帯	（時間帯は 10:00～11:00 のように記入）内容，学んだこと，気付いたこと，疑問点等		
8 : 00～ 12 : 00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5-1 What subject do you study ? (T1・研究授業)</li> <li>・ 6-4 What do you want to be ?</li> <li>・ 協議会 1 時間目の研究授業について</li> <li>・ 5-1 (図工) 冬休みの思い出</li> </ul>		
<p>今日は最初の研究授業をもたせて頂きました。すごく緊張して臨みました。全体として、反省点の多い授業でした。1 つ目は久しぶりの授業だったので復習に重点を置くべきだった所が、やらせたい活動をさらに盛りこんだことで焦点が 2 つになってしまい、子どもたちに「何を学んだのか」を意識させられなかったこと。2 つ目は ALT が話している時の自分の立ち位置・役割が不透明でどうしてよいか分からず児童を支援することができなかったことです。また、基本的に英語での受け答えを意識しましたが、子どもたちに伝えられていたのかも不安でした。先生方からたくさん助言を頂き、また改善して次の授業に臨みたいと思います。ありがとうございます。</p>			



# 学校インターンシップ実習日誌（様式3）

書類の流れ 学生→大学

課程・専攻（選修）	初等英語	氏名	安藤 真弓
第 10 日目	26 年 1 月 20 日（月）		
時間帯	（時間帯は 10:00～11:00 のように記入）内容，学んだこと，気付いたこと，疑問点等		
8 : 00～ 12 : 00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4-1 How's the weather ?</li> <li>・ 授業づくり</li> <li>・ 5-1・5-2 円周について（少人数算数）</li> <li>・ 1-2 体の部分の言い方 Simon says…</li> </ul>		
<p>今日は英語だけでなく、5-1 の少人数算数も参観させて頂きました。気づいたのは、算数ですばやく問題の解ける子ども達が、英語の授業でも元気で声が大きく、目立つということです。その分、自分が英語の授業をする際にも指名しやすくなり、一部の児童にしか発言させてあげられなかったと気づきました。一部の児童が発音できた、みんな分かっているのだと思い込んで授業を進めてしまっていなかっただろうか？と反省しました。次回は意識的に他の児童に光を当てられるようにしたいです。また、1年生の授業では Simon says というゲームで、音と意味、そして体のどの部分かという 3 つの信号を合わせる活動を行いました。最初はとまどっていましたが、段々とゲームを重ねるとできていく様子に驚きました。楽しみながら学ぶことの大切さを感じました。</p>			

# 学校インターンシップ実習日誌（様式3）

書類の流れ 学生→大学

課程・専攻（選修）	初等英語	氏名	安藤 真弓		
第 11 日目	26 年 1 月 29 日（水）				
時間帯	（時間帯は 10:00～11:00 のように記入）内容，学んだこと，気付いたこと，疑問点等				
8 : 00～ 17 : 00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 準備</li> <li>・ 3-2 What do you want ? （買い物ゲーム）</li> <li>・ 5-3 What subject do you study ?</li> <li>・ 5-1 （国語）リーフレットづくり（友だちのアドバイスをもらおう）</li> </ul>				
<p>今日は 3-2 で新しく What do you want ? に入りました。子ども達はお店屋さんとお客さんに分かれて生き生きと学習していました。ペアワークや個人活動は子どものアウトプットができて楽しいしやりがいもあるなど感じる一方で、まだ最初の段階で子ども達にゆだねるのは難しさもあるし、正しい英語でアウトプットできるかも分からないので、危険な点もあるのではないかなと思いました。やるとしたら、単元の終わりに集大成としてアウトプット活動をもってくると、よりよい活動になるのではないかと思います。また、気になったのは I want a _____ と I want _____ s の違いはどう触れていくのかという点です。授業では I want _____ と発音していたので、難しい為にカットしているのかな…？でも正しくはないし…と疑問に思いました。</p>					
			<table border="1"> <tr> <td>確認印</td> </tr> <tr> <td style="height: 50px;"></td> </tr> </table>	確認印	
確認印					

# 学校インターンシップ実習日誌（様式3）

書類の流れ 学生→大学

課程・専攻（選修）	初等英語	氏名	安藤 真弓
第 12 日目	26 年 1 月 30 日（木）		
時間帯	（時間帯は 10:00～11:00 のように記入）内容，学んだこと，気付いたこと，疑問点等		
8 : 00～ 12 : 00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5-1 研究授業</li> <li>・ 6-4 I want to be ～ スピーチ</li> <li>・ 協議会：副校長先生、ジュース先生、吉永先生</li> <li>・ 修正 指導案づくり</li> </ul>		
<p>研究授業では発表の時間が短くなってしまい、全ての子ども達に発表させてあげられなかったことが申し訳なかったです。反省点としては①ジュース先生との連携がうまくとれず、説明不足だったこと ②発表の練習だった活動が単調で、練習（児童の output）につながらなかった ③発表のゲームが複雑で説明不足だった、教具が使えなかったこと などたくさん挙げられました。改善できたこととしては、前回より児童の中に入って、児童と関わったことです。子どもに「大丈夫だよ」と安心感を与えるためには、目を見てほめること、視線を合わせる事が大切だと感じました。また、授業の流れをもっと明確にし、つめこみすぎないこと、また「英語をつかいたい、楽しい」と思える授業づくりも忘れてはいけないと改めて感じました。先生方からの多くのご指導本当に貴重でありがたかったです。自分の財産にできるよう今後活かしたいと思います。ありがとうございました。</p>			

## 学校インターンシップ実施報告書（様式4）

書類の流れ 学生→大学

専攻（選修）	初等教員養成課程 英語選修	学生番号	A11 - 0801
氏名	安藤 真弓		
実習事項名 (整理番号)	外国語活動支援のための学校インターンシップ		
学校名	国分寺市立第四小学校		
実習先住所	〒185-0023 東京都国分寺市西元町1丁目8-1 TEL042-322-0044		
担当指導教諭名	副校長 渡邊 妙子 先生		
実習概要			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観 各学年学級の外国語活動の参観及び指導補助をする（1年～6年）</li> <li>・先生方による指導             <ul style="list-style-type: none"> <li>① ALTとの授業前打ち合わせ、授業中の連携</li> <li>② 学習指導（授業や教材研究）</li> <li>③ 指導案の立案・実践・評価</li> <li>④ 授業研究・研究会</li> </ul> </li> <li>・研究授業に向けての児童理解・教材研究（5年1組の参観など）</li> </ul>			
インターンシップを通して学んだこと			
<p>私が今回学んだことは2点あります。1つ目は外国語活動における T1、T2 の連携の大切さと難しさです。ティームティーチングの良さを活かすためには、事前に ALT と担任が話し合い目標を共有しておくことが不可欠であり、連携できてこそ役割が明確になりよりよい授業になるということを感じました。しかし実際には担任はとても忙しく、ALT は毎日学校にいる訳ではないということもあり、難しさも感じました。2つ目は子どもたちは外国語に強い興味を持っているということです。その興味をつぶすことのないように、子どもの「なんだろう？」の心を大切にしました授業・言ってみたいと思えるようなわくわくする活動を行っていくことがとても重要だと学びました。</p>			

計画したことで達成できたこと・達成できなかったこと

達成できたこととしては、今まで大学で学んできた小学校英語での大切なことを念頭に置きながら実践の場での授業を参観したことです。子どもの「言ってみたい」という気持ちを大切にす、言葉を心にふきこむこと（ただ覚えさせて発表させるのではない）などの重要なポイントを考えながら参観させて頂き、「まねしたい」と思える点もあれば、「私だったらこうする」と思う点もみつき、とても有意義な参観になりました。

できなかったことは、子どもの実態を具体的につかむことです。様々なクラスの授業を参観させて頂きクラスの雰囲気はつかめても、研究授業のクラスをくわしくみることができませんでした。もっと休み時間や給食の時間」を活用して一人ひとりと関わればより子どもたちのための授業ができたのではないかと思います。次回の実習ではぜひ休み時間を活用したいです。

### 3.2 ボランティア

60時間の学校インターンシップに参加する時間的余裕のない学生を中心に、複数回授業を参観したり授業に補助的に関ったりするボランティアの機会を提供した。2年生から4年生の学生23名が参加し、その選修は理科、保健体育、英語、社会、国際教育、音楽、情報教育、日本語であった。受け入れ校として国分寺市立第四小学校と小平市立第十四小学校に協力を依頼した。少ない学生で2時間、多い学生で31時間、平均すると一人約10時間、授業を参観したり補助したりした。

資料3に配属表を、資料4に3人の学生の感想を掲載する。受け入れ校の先生方からは口頭で感想を伺った。「学生のためになる事業に協力できてよかった」、「学生と対話することで外国語活動についてかんがえるきっかけとなった」などの意見が寄せられた。

(木村守)

(資料3)

## 国分寺市立第四小学校

日時	1 時間目	2 時間目	3 時間目	4 時間目	5 時間目	6 時間目
11 8 (金)					2-4	6-1
					竹村和音 [社③]	竹村和音 [社③]
11 13 (水)	6-4	5-2	5-3	6-3		
	栗山梓 [英①]	竹村和音 [社③]	竹村和音 [社③]	横内美里 [社②]		
	竹村和音 [社③]			竹村和音 [社③]		
11 14 (木)	5-1	6-4	6-1	6-3		
	松藤一気 [情②]	赤津慎弥 [情④]	赤津慎弥 [情④]	赤津慎弥 [情④]		
	横内美里 [社②]					
	栗山梓 [英①]					
11 15 (金)					3-1	6-2
					田中佑佳 [情②]	田中佑佳 [情②]
					竹村和音 [社③]	竹村和音 [社③]
11 18 (月)	1-4	3-2	双葉	4-2		
	松藤一気 [情②]	岡部瑛美 [英④]	岡部瑛美 [英④]	岡部瑛美 [英④]		
	横内美里 [社②]	栗山梓 [英①]	栗山梓 [英①]	小田切咲 [音②]		
	田中佑佳 [情②]	竹村和音 [社③]	竹村和音 [社③]			
11 19 (火)	5-1	4-3	3-3	5-4	5-3	6-2
	松藤一気 [情②]	松藤一気 [情②]	王夢薇 [日③]	王夢薇 [日③]		
	田中佑佳 [情②]	王夢薇 [日③]				
	田中規子 [英②]					
11 28 (木)	5-1					
	松藤一気 [情②]					
	横内美里 [社②]					
	栗山梓 [英①]					
11 29 (金)	1-4					6-1
	赤津慎弥 [情④]					
	藤田真人 [情④]					竹村和音 [社③]

12 2 (月)		6-2	2-2			
		小田切咲 [音②]	小田切咲 [音②]			
		栗山梓 [英①]	栗山梓 [英①]			
		加藤千尋 [国④]	加藤千尋 [国④]			
12 3 (火)	5-1	3-1		5-4		
	松藤一気 [情②]	松藤一気 [情②]		王夢薇 [日③]		
	田中佑佳 [情②]	王夢薇 [日③]				
	田中規子 [英②]					
12 4 (水)	6-4	3-2	5-3	6-3	5-4	
	栗山梓 [英①]	竹村和音 [社③]	竹村和音 [社③]			
	竹村和音 [社③]	加藤千尋 [国④]	加藤千尋 [国④]	竹村和音 [社③]	竹村和音 [社③]	
	赤津慎弥 [情④]			加藤千尋 [国④]		
12	5-2				1-2	
12	松藤一気 [情②]				赤津慎弥 [情④]	
(木)	横内美里 [社②]					
12	2-4				1-3	6-1
13	赤津慎弥 [情④]				田中佑佳 [報②]	田中佑佳 [情②]
(金)	藤田真人 [情④]				竹村和音 [社③]	竹村和音 [社③]
12 16 (月)	2-4	4-3	5-1	4-2		
	松藤一気 [情②]	岡部瑛美 [英④]	岡部瑛美 [英④]	岡部瑛美 [英④]		
	横内美里 [社②]	栗山梓 [英①]	栗山梓 [英①]	小田切咲 [音②]		
	田中規子 [英②]	竹村和音 [社③]	竹村和音 [社③]	加藤千尋 [国④]		
12	5-1	1-5	3-3	5-4		
17	松藤一気 [情②]	松藤一気 [情②]	田中佑佳 [情②]	田中佑佳 [情②]		
(火)	田中佑佳 [情②]	田中佑佳 [情②]	王夢薇 [日③]	王夢薇 [日③]		
	田中規子 [英②]	王夢薇 [日③]	加藤千尋 [国④]	加藤千尋 [国④]		
1					4-2	6-1
10					田中佑佳 [情②]	田中佑佳 [情②]
(金)					竹村和音 [社③]	竹村和音 [社③]

1 16 (木)	5-1					
	松藤一気 [情②]					
	横内美里 [社②]					
1 17 (金)	6-2	3-1	5-3	さつき	3-3	6-1
	河村晏奈 [理②]	河村晏奈 [理②]	河村晏奈 [理②]	河村晏奈 [理②]	河村晏奈 [理②]	河村晏奈 [理②]
					竹村和音 [社③]	竹村和音 [社③]
1 20 (月)	4-1		2-2	1-2		
	横内美里 [社②]		小田切咲 [音②]	岡部瑛美 [英④]		
	田中規子 [英②]		竹村和音 [社③]	小田切咲 [音②]		
	竹村和音 [社③]		加藤千尋 [国④]	加藤千尋 [国④]		
1 21 (火)	3-3	5-2	6-1	5-4		
	松藤一気 [情②]	松藤一気 [情②]		王夢薇 [日③]		
	田中規子 [英②]	王夢薇 [日③]		加藤千尋 [国④]		
	加藤千尋 [国④]	加藤千尋 [国④]				
1 29 (水)		3-2	1-4	6-3		
		竹村和音 [社③]	竹村和音 [社③]	横内美里 [社②]		
				竹村和音 [社③]		
1 30 (木)	5-1					
	松藤一気 [情②]					
	横内美里 [社②]					
1 31 (金)					3-1	6-1
					竹村和音 [社③]	竹村和音 [社③]

(表中[ ]内は選修と学年を表す。)

社=社会 情=情報 英=英語 日=日本語 音=音楽 国=国際教育 理=理科)



小平市立第十四小学校

日	2 時間目	3 時間目	4 時間目
11/14(木)	芳賀学 [社会④]	芳賀学 [社会④]	芳賀学 [社会④]
	大森真梨萌 [英語③]	大森真梨萌 [英語③]	
	伊藤理沙 [英語③]	伊藤理沙 [英語③]	
11/28(木)	大森真梨萌 [英語③]	大森真梨萌 [英語③]	
	伊藤理沙 [英語③]	伊藤理沙 [英語③]	
12/5(木)	芳賀学 [社会④]	芳賀学 [社会④]	芳賀学 [社会④]
	羽鳥宏美 [英語③]	羽鳥宏美 [英語③]	
	鈴木麻実 [英語③]	鈴木麻実 [英語③]	
12/12(木)	芳賀学 [社会④]	芳賀学 [社会④]	芳賀学 [社会④]
	羽鳥宏美 [英語③]	羽鳥宏美 [英語③]	
	鈴木麻実 [英語③]	鈴木麻実 [英語③]	
12/19(木)	芳賀学 [社会④]	芳賀学 [社会④]	芳賀学 [社会④]
	羽鳥宏美 [英語③]	羽鳥宏美 [英語③]	
	鈴木麻実 [英語③]	鈴木麻実 [英語③]	
1/9(木)	伊藤理沙 [英語③]	伊藤理沙 [英語③]	
	羽鳥宏美 [英語③]	羽鳥宏美 [英語③]	
1/16(木)	伊藤理沙 [英語③]	伊藤理沙 [英語③]	
	羽鳥宏美 [英語③]	羽鳥宏美 [英語③]	
	鈴木麻実 [英語③]	鈴木麻実 [英語③]	
1/23(木)	伊藤理沙 [英語③]	伊藤理沙 [英語③]	
	羽鳥宏美 [英語③]	羽鳥宏美 [英語③]	
	鈴木麻実 [英語③]	鈴木麻実 [英語③]	
1/30(木)	伊藤理沙 [英語③]	伊藤理沙 [英語③]	
	羽鳥宏美 [英語③]	羽鳥宏美 [英語③]	
	鈴木麻実 [英語③]	鈴木麻実 [英語③]	
2/6(木)	伊藤理沙 [英語③]	伊藤理沙 [英語③]	

## 小学校英語ボランティア 体験レポート

羽鳥 宏美 (英語選修 3年生)

### 1. 参加した授業のリストとその時の感想

#### ① 12月5日 (2, 3限)

ボランティア初日。私を含む学生3人で活動案を考えるように指示され、前置きなく、考えた活動案で授業をすることになった。短時間にその場で立てた活動案では、良い授業になるはずもなく、初日から散々な思いをした。やはり、今まで教わってきた活動が頭にあっても、それらをその場で組み合わせるだけでは、1つの授業として成り立たないのだと実感した。これ以降のボランティアでは、本時のながれ・一貫性を意識して、授業案を考えたいと思った。

#### ② 12月12日 (2, 3限)

ボランティア2回目のこの日は、初めてALTのマリベル先生との授業だった。2限の6-2の授業(単元: "What do you want to be?")は主に参観、3限の5-2では私たちが参加して授業を行った。3限の授業実践では、事前に考えた活動案を、粕谷先生に見て頂いてから練り直して立てたものだったので、活動を終えた手ごたえは良かった。インプットはたくさんできたので、次回はアウトプットの機会を設けられるようにしたいと思った。

#### ③ 12月19日 (2, 3限)

この日も2限は授業参観、3限は実践をした。2限では「将来の夢アンケート」と称して、子どもが歩き回って "What do you want to be?" "I want to be a~." のやり取りをして、答えをメモしていく、という活動があった。しかし、日本語で聞いただけで答えをメモしている子が見られるなど、教師の指導が行き届いていなかった。こういった手法の活動は、いまやアウトプット活動の定番になっているとはいえ、見直す必要があると強く感じた。3限の授業実践では、クリスマスに関連づけて、星の絵描き歌を歌い、リース作りをした。子どもたちは楽しめていたようであったが、インプットとして残せたものは少なかったのではないかと、という反省もあった。

#### ④ 1月23日 (2, 3限)

学校の都合でしばらくお休みが続き、1か月ぶりとなったこの日は、2, 3限ともに授業見学。ALTのマリベル先生とのTTの授業をじっくり見ることができた。今回の授業では、これまでずっと気になっていた、T1の日本語の多さ(ALTの話す英語を直訳するなど)が改善されたようだった。前週に粕谷先生の公開授業があったことが大きく影響しているのだろう。それでも、実際に子どもは英語だけでも意味が分かっている様子が見られたし、やはり日本語の補助は最小限にしたいものだと思った。「やっと英語の授業らしくなったなあ…」というのが、この日の正直な感想だ。これまで英語の授業らしくない違和感は、日本語の多さからきていたのかもしれない。

## ⑤ 1月30日（2，3限）

ボランティア最終日のこの日も、授業参観を行った。この日は日本人の T2 との TT が行われた。2時間とも”What would you like?”の単元でオリジナルメニューを考えるのがメイン活動の授業だった。この単元は、私自身なかなか良い活動案が浮かばなかったのだが、それぞれにカロリーが書かれた food menu から、カロリーを考えながら献立を考える、という今回の活動は、子どもにも楽しそうだった。”What would you like?”の表現を学ぶのに適当な活動であるかといえば、少し疑問が残るが、子どもは夢中になってオリジナルメニューを考えられていたと思う。世界の給食の写真を電子黒板で見る活動も、子どもは日本の給食との違いに驚きながら、楽しんで見ていたようだった。

「楽しい」かつ「子どもに残る」、両方を満たす活動をするのは難しいことなんだな、と、今回改めて思った。

## 2. ボランティア体験を踏まえて、今後の小学校英語教育について思うこと

はじめに授業を参観させて頂いた時には、正直、「これを英語の授業というのか…」くらいの衝撃を受けた。大学で「この活動は良くない」と教わっていた、英単語や英文のリピート、フラッシュカードを使った英単語学習、チャンツなどの活動が次々に行われていて、日頃、粕谷先生に教わっている授業は理想中の理想なのだ、と思わざるを得なかった。しかし、現状ではそれも仕方ないことなのであろう。実際、ボランティア先の14小で英語の授業を担当していたのは、音楽専科の先生だった。個々の教師の知識や指導技術の問題以外にも、今回の体験では特に、TT でスムーズに授業を進めるのには、まだまだ課題が多いと感じた。

小学校英語教育全体についていえば、これから、外国語活動の必修化、時間数の増加など、小学校英語に対する熱はどんどん高まっていく。それを担っていく人材を十分に確保するのは、すぐには困難であろう。そこで私は、現職教員へのより細やかな研修や講習会が必要であると思う。担任にこれ以上の質を求めるのが困難な場合には、授業を専任教師や ALT に任せることがあってもいいと思う。そして、これからは大学で、小学校英語に関する知識や最低限必要な指導技術をもった教員を養成することも求められる。また、「学ぶのは子ども」だということは、忘れてはならないことだと思う。大人たちだけが焦って進めようとしたところで、実際にその英語教育を受ける子どもたちが置いて行かれるようなことになっては、本末転倒だ。「子どもたちにとって、どうするのがより学びやすく、その子の力になるのか」という視点を常に持って、小学校英語教育を考えていく必要があるだろう。

このボランティア体験を通して、実際の現場に携われたことは、自分にとって大きい。自分の理想としていた小学校英語と実際とがあまりに違って、批判的にとらえてしまうことも多かったけれど、それだけ課題意識を持って、参観や実践に臨めたからだとも思う。ただ、課題が見つかったとしても、それをどう改善すればいいか、答えを出すところまでは辿りつけていない。もうすぐ4年生になり、大学生活も残りわずかだが、残された時間、粕谷先生のもとで学べることを精一杯学び、その都度、自分自身で考えていきたい。

このような貴重な体験の機会をいただき、また、サポート等してくださり、ありがとうございました。

## 小学校外国語活動ボランティアを終えて

小田切 咲（音楽選修 2年生）

### ①参加（見学）した授業のリストとその時の感想

11月18日 4-2 4時間目

・ **Where are you going?** で絵を使って駅や建物を覚えていき、かるた形式で場所のカードを使って子供たちが楽しそうに取り組んでいるのが良かった。

12月2日 6-2 2時間目

・ 電子黒板を実際の授業で初めて使用しているのを見た。英語の自然な会話の流れに比べてチャントの切れ目が少し不自然に感じた。視覚的にも子供に興味を持たせるのに効果的と思ったが、せっかく ALT の先生がいらっしゃるのだからもうひと工夫できるのかなと感じた。

2-2 3時間目

・ 動物の英単語を子ども達が挙げる時に決まった子しか挙がっていなかったのも、まず英単語で挙げる前に日本語で動物を挙げた方がとっつき易いのでは、と思った。コウモリの発音で「bet」と「but」の発音の違いを子ども達が一生懸命聴こうとする姿勢が印象的だった。

12月16日 4-2 4時間目

・ クリスマスも近いということもあり、クリスマスソングを歌ったりして季節感がありいいなと思った。

1月20日 2-2 3時間目

・ **How was winter vacation?**から授業がスタートし子ども達の冬休みの出来事が活発に発表されていた。前回に引き続き **animals** のテーマだった、左右両方から黒板に貼ったカードを言いながらドンジャンをするゲームで勝つのを重視するため発音が適当になってしまうのでは、と当初思っていたが ALT の先生が適当に言っている子にはもう1度遣らせたりして発音がおろそかにならないように配慮し、担任の先生はドンジャンをする子ども達の整列をしていたり T2 だからできることなのかなと思った。ゲームは子ども達ののめり込み具合がすごくみんな夢中になって楽しく参加していていいなと思った。

1-2 4時間目

・ 1年生の授業を見るのは初めてだった。歌を沢山歌って身振り手振りをつけてとても楽しい様子だった。英語の絵本を使った授業は子どもたちも落ち着いて聴こう、という姿勢ができていて、歌う＝「話す」、絵本＝「聴く」という形が自然とできていてよかった。

### ②ボランティア体験を踏まえて今後の小学校英語教育について思うこと

英語が小学校教育に導入されることが決定してから、私自身英語を話すことが中途半端で（これからは引き続き身に付けたいが）教師になった時にどうすればいいのか、子ども達にどう教えればいいのか全く見当がつかなかったのもとても不安だった。しかしこのボランティアに参加させて

いただいて英語が堪能にしゃべれなくても子供たちに正しい単語レベルの発音をまず大切にすべきと考えた。例えば、玉ねぎで「オニオン」と発音する子が研究授業でいた。それを聞いたALTが「onion」と「o」の発音を訂正していた。また数字の3では「スリー」ではなく「three」と発音する。発音は一度身に付けたらなかなか直すのが難しいのを、私自身声楽等でイタリア、ドイツ歌曲を歌ったりするときに痛感してきた。どうしたら「本物」の英語の発音に近づけられるか、またどう音声教材を活用していくかが考えどころであるかなと思った。

また英語の授業は子ども達にどう思っているかが分からなく、ボランティア以前は「退屈」という自分が小学校6年生時に感じていた印象しかなかった。しかし教室に入ってみるとゲームや歌をいきいき取り組んでいて時には教師に「もっと声の物差しレベル下げて」と注意されるほど楽しそうに授業を受けている子ども達の姿がどのクラスでもみられた。毎回の文法テーマがありそれをしゃべれるように子ども達になるのが心配だったが、研究授業、ボランティアに参加してしゃべる前に聴こうとすることが大切で英語を習う、覚えるのではなく自然といつの間にか身に付けられる楽しいものであるということを感じた。私が小学生に英語を教える機会が来たら、「楽しく」をモットーに授業ができたらいいなと思う。

## 外国語活動の指導 学校ボランティアを終えて

竹村 和音（社会選修 3年生）

参加した授業

- 1年生 歌、ダンスをしながら体の部分の名前を覚える
  - 2年生 動物の名前を知り、それを発音しながらドンジャンをする
  - 3年生 食べ物の名前を知り、お店で買い物をする
  - 4年生 天気の言い方を知り、歌の内容を聴きとる
  - 5年生 教科の名前を知り、時間割をつくる
  - 6年生 将来の夢、自分の日常についてのスピーチを作り、発表する
- 双葉 色の言い方を知り、カラーバスケット(フルーツバスケット)を行う

11月～1月までの約3ヶ月間、国分寺市立第四小学校で、外国語活動の指導の授業に参観、参加をさせていただき、本当に様々なことを学びました。主な活動は、ALTのジュース先生についていき、授業記録を取ることでしたが、場合によっては、児童とゲームに加わる、質問や問題が分からない児童への支援をするなど、授業へ参加する場面も多かったです。

このボランティアを通して学んだことは書ききれないほどありますが、その中でも、特に印象に残った子どもの姿や、教師の関わり方などについて述べたいと思います。

1年生～4年生では、ゲームを多く取り入れていました。子どもが楽しみながら活動できるという点で、ゲームはとても有効だと思います。ただし、デモンストレーションだけでは、なかなかすべてのルールが伝わらず、不満に思う子どもがいました。ゲームを取り入れるときには、担任の先生がきちんと(日本語でもよいので)ルール確認をすることで、子どもは安心して、より積極的に英語を使うことに集中できるのではないかと思います。

5,6年生では、本格的に英語を学習する活動が行われていました。テキストや電子黒板を使った授業で、リスニングやクラス全体へのスピーチなども取り入れられていました。そこで感じたのは、英語に慣れていない子どもが、なかなか授業についていけない様子が見られたことでした。特にリスニングは、「聴き取り」且つ「その内容を理解する」という2段階の活動が必要です。そのため、たとえ高学年でも、慣れていない子どもにとっては難しいことなのだと思います。

また、全学年を通じて、やはり英語を習っているか否かでの差が、授業でも顕著に現れると思いました。特に5,6年生になると、発言の積極性にも差が見られ、英語が分からない子どもが「自分は全然できない」と劣等感を感じているような姿もありました。

このような授業の中で、担任の先生の関わり方も、とても印象的でした。担任の先生は、ジュース先生と子どものあいだに立ち、時には日本語を使いながら、授業の進行をサポートする立場をとっていました。子どもにとって、普段から接している担任の先生のワンクッション入った関わりが、安心して活動に参加するために必要なのだと感じました。また、子どもがジュース先生の言葉や指示を理解しているのかをよく見て、本当に分かっているのか確認していました。言葉では分からない行動や表情など、担任だからこそ分かる子どもの様子があり、それを上手くALTの先生に伝えていくことも、担任の重要な役割であると思いました。

以上が授業の中で感じたことです。担任の先生の関わり方を参考にし、今後、自分自身が外国語活動を行う際に、ぜひ実践していきたいと思います。

### 3.3 授業参観

1回だけでも授業を参観したい学生のためにも機会を提供した。大学から徒歩5分ほどで行ける小金井市立本町小学校に協力を依頼した。本町小学校より、ALTとのTTと担任が一人で行う授業のどちらを参観させたいか問われたが、どちらの授業からも学ぶことがあり、大学側から特に指定はしなかった。各回1～3名の学生が参加した。

表2に参観の時間割りを、資料5として二人の学生の感想を掲載する。

(木村守)

#### 小金井市立本町小学校

	2 時間目 (9:35～10:20)	3 時間目 (10:40～11:25)	4 時間目 (11:30～12:15)	5 時間目 (13:35～14:20)
1月14日 (火) (ALTなし)		宮川 裕香理 野田 遼 ※粕谷先生 同行	宮川 裕香理 野田 遼 ※粕谷先生 同行	
1月20日 (月) (ALTあり)	高山 由花 村山 聡美 宮川 裕香理 ※粕谷先生 同行			志村 萌々 ※木村先生 同行

表2 小金井市立本町小学校 授業参観

## 外国語活動授業参観の感想

志村萌々 (国際教育選修2年)

小学校外国語活動を参観する貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

CD を活用して歌を歌ったり、ゲームをしたりと英語に慣れ親しませるよう工夫されていたようには思いました。また、Speaking ばかりではなく Listening の時間も設けられており、その補助として教科書を活用していたのもよかったと思えました。

ただ、センテンスではなく単語を言う場面が多かったことやネイティブの先生と児童の間に距離が感じられて発言があまりでなかったり、6年生ということもあって歌を歌うことに抵抗がある様子がみられたりしたのが気になりました。

あとは学級担任がどれくらい日本語で説明を加えるかという点も難しいと思えました。率直な感想で失礼かもしれませんが、以上のようなことを感じました。

今後に生かしていきたいと思います。ありがとうございました。

高山由花 (国際教育選修2年)

英語を文ではなく、単語ごとに区切ってしか耳に入っていない環境で学習していることがよく分かりました。例えば教科の英語の言い方を教えるときに ALT の先生が I/study/English. というように一つずつジェスチャーを付けながら話しているので、単語でしか英語が入ってきていないようでした。

また、児童の感想に「ビンゴが楽しかった。」と書かれていて、ゲームを通して教科の英語の言い方を学習したはずがゲーム頭に残っていないことが分かりました。

しかし、児童は耳で聞きとれる範囲で一生懸命発音して積極的に授業に参加している様子が見れました。



## 4. 指導用教材の開発

現場の先生方が少しでも授業がしやすいためには、よい教材のサポートが必要であると考え、音声教材を作成した。

### 4.1 歌とチャンツのCD

相手にわかられやすい音声を身につけていることは、コミュニケーションをはかるときに重要なことである。児童が英語らしい音の流れにふれるのに適している授業で使える歌と、新たに作った『Hi friends!』の各レッスンに対応したチャンツを収録したCDを作成した。

歌の選定は粕谷と訳詞を担当した内野駿介・大橋美沙季（ともに東京学芸大学教育学研究科英語教育専攻）が行い、伴奏は木下和彦（東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科）が作曲と演奏を担当した。歌唱はルミコ・バーンズ氏に依頼し、平成26年1月19日にELEC（一般財団法人 英語教育協議会）のスタジオにおいて録音を行った。

収録した歌のリストは以下の通りである。

1. No, No, Yes, Yes
2. John brown's Baby
3. The Bear Went Over the Mountain
4. Rub-a-Dub-Dub
5. To Market, To Market
6. Down by the Bay
7. Once an Austrian Went Yodelling
8. This Old Man
9. Over in the Meadow
10. Hey Diddle Diddle
11. Going to St. Ives
12. Peter Piper

### 4.2 歌とチャンツの冊子

CDと対応した冊子を制作した。CDに収録されている歌の歌詞・イラスト・訳詞・一部の歌については楽譜を載せた。イラストは東京ハイジのササキワカバ氏に依頼した。歌詞とイラストのページには、クラスと名前を書ける欄をつけ、学校で印刷して児童の手元に残るよう工夫した。

CDと冊子を150部作成し、平成26年3月の完成時には国分寺市・小平市・小金井市の全小学校に一部ずつ配布した。

(粕谷恭子)

## 5. 小学校英語に関する指導力の育成

年間の研修の予定が立っているあとで研修の日程を立てていただくことは簡単なことでなかったが、3市の指導主事・協力校の管理職の理解と熱意に支えられ、3回教員研修に出向いた。

平成25年11月27日には国分寺市立第四小学校で校内研修会を行った。講師として田園調布雙葉小学校非常勤講師の相田眞喜子氏をお招きし、20名あまりの教員を対象にゲームにかたよらない担任にも指導しやすい実践的な活動を多く紹介していただいた。

平成26年 1月15日には小平市の教科等研究会外国語部会の授業研究会において、小平市立第十四小学校の佐々木真吾教諭の6年1組の授業に対する助言を行った。この回は、授業研究会であったため、外部講師は招へいせず、粕谷が担当した。

平成26年 3月 4日には小金井市の「小学校外国語活動推進委員会・中学校ALT運営委員会」において、東京国際大学非常勤講師の佐藤令子氏に研修を依頼した。

外国語活動が導入されて3年の時を経、外国語活動に関する研修が下火になっているとも言われる中、尊い時間を割いて参加した先生方から、研修の意義を感じさせられる意見を多くいただき、次年度以降も各市教委と連携して何らかの形で研修を続ける方策を模索したいと考えている。

資料6に、研修参加者の声を数葉掲載する。

(粕谷恭子)

## 研修参加者の声

(資料6)

- ・ 現場の様子をよく理解してくださっており、教員が抵抗なく外国語活動に取り組めるような活動が多くありました。  
次の英語の時間で、今日教えていただいたことを使えたらと思っています。  
お忙しい中ありがとうございました。
- ・ 今回は、お忙しい中、分かりやすいさまざまな取り組みを教えていただいて、ありがとうございました。  
子どもも大人も英語にたくさん触れて、ただリピートをさせて、覚えさせようとするのではなく、言葉として英語を使えるように、意味のある実践的に使っている様子を子どもたちの耳に入れられるよう創意工夫できたらと思っています。  
本日は、大変ありがとうございました。
- ・ 外国語活動において大切なことは、自分の思ったことを表現することだと考えています。ですが、教員も子どもたちも「～でなければならない」に意識がいき過ぎ、話すことに二の足を踏んでしまっているのが現状です。言語を習得するためには、コミュニケーションにだけ焦点化していくのは限界があるように感じます。今後そのバランスをどうとっていくのか課題かと思えます。また話すべき状況をつくるということもできればいいと思います。(英語しか話せない人に囲まれる、英語が通じた喜びを感じる) 現実的ではありませんが…。
- ・ 英語という言語を通して、意識して聴こうとする力を育てるという英語活動のねらいが、それとなく理解できた研修でした。言葉に命をふき込むことは英語に限らず各教科や活動それぞれの教育活動の場面で、共通して重視すべき指導であると感じさせられました。  
“子どもと関わる”ことに魅力を感じて就いた職です。英語のみならず、言葉と、人との関わりを意識して指導にあたりたいと思いました。  
今日はありがとうございました。
- ・ すごく楽しくて、やってみたい!と思うものがたくさんありました。  
中・低学年でもできそうな、文の少ないものでも、じゅうぶん楽しい活動ができるのだと思い、参考にさせて頂きたいと思いました。(私自身も英語に苦手意識があったので…そんなに難しく考えなくてもいいんだと分かりました。)  
ありがとうございました。
- ・ 本日は、有意義な時間をありがとうございました。外国語活動の時間が児童にとって外国語を活用する力を身に付けるべき時間であることを改めて実感しました。  
都の研修の際にも痛切に感じたことではありますが、外国語活動の時間は担任教師が主で行い、ALTはT2として入るべきこと、担任の指導について等を今回もやはりそこが本校の課題であると感じました。ALTの先生との打ち合わせの時間が全くといっていいほど取れない中で、いかにやっていくかを今後も考え、実践につなげていかなければならないという思いです。  
ありがとうございました。

## 6. 小学校教員の英語授業支援のための Web サイトの開設

東京学芸大学のホームページの中に本事業のWebサイトを開設した。内容は、作成したCDの音源、冊子の情報、実際の授業場面の映像及びその解説である。

CDの音源については、ICTを駆使した授業を行っている先生方の利便性を考えWebサイトにおくこととした。

授業場面は、本事業のメンバーがいる東京学芸大学附属世田谷小学校で粕谷が授業を行い、技術補佐の箱守知己が撮影した。授業の流れを見せることよりも、研修などで紹介した活動が、教室の中で実際どのように展開するのか、その手順やありさまを見せることがねらいである。紹介している活動は、①出席番号を使った活動、②歌の導入、③月の名前を扱った活動、④25までの数字を扱った活動の4つである。

Webサイトの作成は、佐々木若葉氏に依頼した。

(粕谷恭子)

## 7. 発表・報告

### 7.1 日本教育大学協会研究集会における発表

教員養成系大学・学部には教員の資質能力向上を目指した教員養成のさらなる高度化が求められている。日本教育大学協会では、教員養成教育のさらなる改善・充実を図るために、研究集会を主催している。今年度は、平成 25 年度日本教育大学協会研究集会が、北海道教育大学を当番大学として、北海道札幌市の札幌全日空ホテルを会場に、平成 25 年 10 月 5 日（土）に開催された。

今年度の研究集会の 5 つの分科会の内の一つとして、大学と地域との連携による教育・研究の取り組みなどをテーマにした第 4 分科会「教員養成大学としての地域貢献のあり方」が設定されており、「教員の資質能力向上に係る先導的取組支援事業」として東京学芸大学が受託した「ICT 活用による小学校英語の授業力向上のための取組 —大学と地域の学校とが連携・協働した教員養成と教員研修—」について発表した。

その研究発表の内容および当日の発表のスライドを資料 7 として掲載した。

（伊藤一郎）

## 大学と地域の学校とが連携・協働した教員養成と教員研修 —ICT を活用した外国語活動の授業づくりの支援—

東京学芸大学教育学部教授 ○粕谷 恭子

長谷川正\*<sup>1</sup> 伊藤一郎\*<sup>1</sup> 木村守\*<sup>1</sup> 新藤茂\*<sup>1</sup> 樫山淳雄\*<sup>1</sup> 加藤直樹\*<sup>1</sup> 鳴海多恵子\*<sup>1</sup>

藤原裕\*<sup>1</sup> 栗原正治\*<sup>2</sup> 齊藤豊\*<sup>2</sup> 平田勇治\*<sup>3</sup> 横山明\*<sup>4</sup> 古林香苗\*<sup>5</sup>

\*<sup>1</sup>東京学芸大学 \*<sup>2</sup>東京学芸大学附属世田谷小学校 \*<sup>3</sup>東京都小金井市教育委員会

\*<sup>4</sup>東京都小平市教育委員会 \*<sup>5</sup>東京都国分寺市教育委員会

### 1. はじめに

東京学芸大学では、近隣3市（小金井市、小平市、国分寺市）の教育委員会と連携して「東京学芸大学・3市連携IT活用コンソーシアム」を組織している。この枠組みを利用して文部科学省からの受託事業として、3市の協力小学校とも連携し、小学校英語教育の質的向上を図る事業を行っている。本発表では、この事業の概要について報告する。

### 2. 事業の概要

#### (1) 現状の調査・分析と情報収集

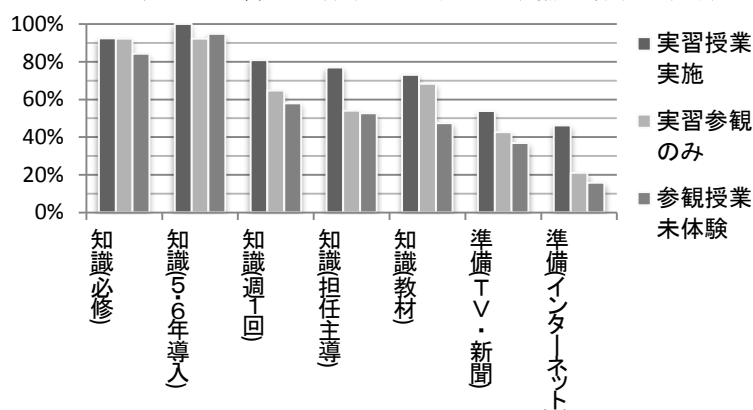
本事業を推進する基盤となる情報を得るための3つの活動を行う。

- 現場のニーズと現状を把握するため、大学近隣3市の英語教育の実態調査、授業用教材・教具などの情報収集を行う。
- 教員養成段階の学生の意識を探り必要な支援を供給するため、外国語活動（英語教育）に関する意識調査を行う。
- 授業の実態や使用教材についての情報を収集するため、英語教育の先進的な取り組みをしている公立小学校を視察する。

表1 教育実習での体験

		基礎実習（3年次）			
		授業	参観のみ	未体験	計
応用実習 （4年次）	授業	7	9	2	18
	参観のみ	5	73	53	131
	未体験	3	41	19	63
	計	15	122	74	212

図1 実習での体験と知識及び準備を有する割合



## (2) 教員養成課程学生の英語授業の体験

現在、東京学芸大学では、英語選修以外の初等教育教員養成課程の学生に対して、外国語活動についての知識や指導法を扱った必修科目は設定されていない。教職に関する選択科目の中に「小学校外国語活動の指導」という科目を開講しているに過ぎない。

また、2回の教育実習を経験した4年生を対象とした調査において、外国語活動に関する体験や知識・準備の面でも、指導者となるには不十分な状況である。(図1・表1参照)

そのため、より厚い教員養成の営みとして、大学近隣3市と連携して、教員養成段階の学生に英語授業見学の機会を提供し、また、さらに深く関わるため、英語授業への計画的参画の機会を作る。

## (3) 指導用教材の開発

言語でコミュニケーションをする際、音声果たす役割は大きい。また、年齢が低いほど音声の獲得はたやすい。裏を返せば、年少の頃に身に付けない方が良いような音声に触れることの弊害は、年齢が高い学習者よりも大きいということである。小学校の外国語活動で多用されているチャンツの中には、英語のプロソディとは著しくかけ離れたものがあり、教材としての質を吟味されることなく教室で再生されている現状がある。

本事業では、将来の英語によるコミュニケーションに寄与する音声教材を作成することで、教師の負担をなくし、児童に与えるインプットの質の向上を図る。

## (4) 小学校英語に関する指導力の育成

多くの小学校教員にとって、外国語活動の指導に携わることは教員としての職業設計の中にはなかったことであり、とまどいや不安や、忌避したいという思いを持つのは至極当然のことであると考えられる。文部科学省から教材が配布され指導内容について指針が示され、また、3回にわたって授業場面のDVDが配布されたことで、指導法や実際の授業イメージを把握できるようになってきてはいる。

本事業の教員研修においては、担任の先生方が自身の特質を生かしながら負担なく授業の中で役割が果たせるよう、具体的な事例を挙げながら解説し、特に英語教育の面での小中連携にあたって留意すべき点を伝えることを行う。

## (5) 小学校教員の英語授業支援のためのWebサイトの開設

自身が小学校時代に受けたことがなく、教員養成段階でも触れてこなかった英語(外国語)を扱う授業の困難さは、そのイメージをつかみづらいことが大きな要因と考えられる。

3市の小学校の協力を得て、研修や書籍だけではイメージが湧かない実際の授業の様子を録画し、Webサイトでいつでも参照できるようにする。説明を聞いただけでは解りにくい授業の運びや、活動の進め方、実際の児童の様子を合わせて視聴することで、より具体的に指導手順や教材・教具の使い方に習熟することができるよう教員支援を図る。

## 大学と地域の学校とが連携・協働した 教員養成と教員研修

### —ICTを活用した外国語活動の授業づくりの支援—

○粕谷森子\*1 長谷川正\*1 伊藤一郎\*1 木村守\*1 新藤茂\*1 樋山淳雄\*1 加藤直樹\*1  
 鳴海多恵子\*1 藤原裕\*1 栗原正治\*2 齊藤豊\*2 平田勇治\*3 横山明\*4 古林香苗\*5

\*1東京学芸大学 \*2東京学芸大学附属世田谷小学校  
 \*3東京都小金井市教育委員会 \*4東京都小平市教育委員会 \*5東京都国分寺市教育委員会

平成25年度 日本教育大学協会研究集会

## 発表の概要

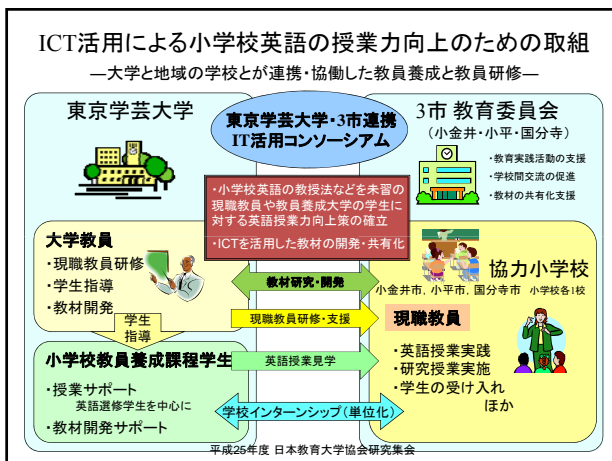
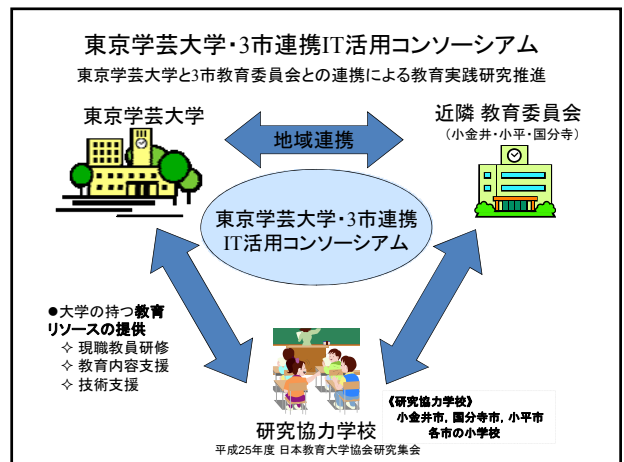
0. 事業の概要
1. 現状の調査・分析
2. 教員養成課程学生の英語授業の体験
3. 小学校英語に関する指導力の育成
4. 指導用教材の開発
5. 英語授業支援のためのWebサイトの開設
6. まとめ

平成25年度 日本教育大学協会研究集会

## 0. 事業の概要

- 平成25年度文部科学省の委託事業  
「教員の資質能力向上に係る  
先導的取組支援事業」
- 本学のテーマは「ICT活用による小学校英語の  
授業力向上のための取組」
- 東京学芸大学・3市連携IT活用コンソーシアム  
を母体として申請・受託
- 大学教員、指導主事、附属小学校教員、協力  
小学校校長の協働による事業推進

平成25年度 日本教育大学協会研究集会



## 1. 現状の調査・分析

- 国内の2校を視察(予定)
- 学生に対するアンケート調査(7月実施)
- 教員に対するアンケート調査  
(9月実施、未集計)  
— 研修、授業の方法、意見感想、外国語経験

平成25年度 日本教育大学協会研究集会



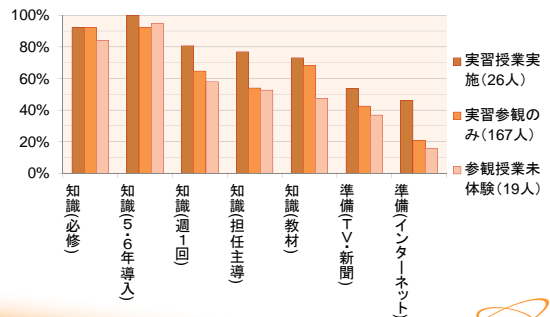
## 学生対象アンケート調査結果

### 学生に対するアンケート調査(7月実施)

- 調査内容
  - 基礎実習、応用実習で外国語活動授業の実施の有無
  - 基礎実習、応用実習で外国語活動授業の参観の有無
  - 外国語活動に関する知識(必修、学年、回数、担任、教材)
  - 外国語活動に関する経験・準備
- 対象学生
  - 東京学芸大学
  - 初等教育教員養成課程4年生 490名(定員)
  - (定員には幼稚園教員養成 20名を含む)
  - 回答者数 212人(小学校教育実習経験者)

平成25年度 日本教育大学協会研究集会

## 実習での経験と準備及び知識を有する割合



平成25年度 日本教育大学協会研究集会

## 2回の教育実習での授業体験の偏在

		基礎実習(3年次)			
		授業実施	参観のみ	未体験	計
応用実習 (4年次)	授業実施	7	9	2	18
	参観のみ	5	73	53	131
	未体験	3	41	19	63
	計	15	123	74	212

平成25年度 日本教育大学協会研究集会

## 2. 教員養成課程学生の英語授業の体験

### 協力小学校との関わり

- 単位認定を受ける「学校インターンシップ」
- 単位認定は受けない「学校ボランティア」
- 授業参観

平成25年度 日本教育大学協会研究集会

## 3. 小学校英語に関する指導力の育成

- 3市教育委員会との協力
- 現職教員研修の内容
  - 潜在的な指導力の再確認
  - 担任が負担なく実践できる授業の提案

平成25年度 日本教育大学協会研究集会

## 4. 指導用教材の開発

- チャンツのCD作成
- 英語の歌のCD作成

平成25年度 日本教育大学協会研究集会

## 5. 小学校教員の英語授業支援のためのWebサイトの開設

- 具体的な指導場面の映像を提供
  - 附属小学校で撮影(予定)
- 検証した作成教材を提供

平成25年度 日本教育大学協会研究集会



## 6. まとめ

- 「東京学芸大学・3市連携IT活用コンソーシアム」が培ってきた協力体制
- 「なんとなく、なんとなくかなっている」外国語活動の現状。次の一步は？
- その中で、ICTが果たす役割

平成25年度 日本教育大学協会研究集会



## 7.2 教育フォーラム 2013 における発表

東京学芸大学・3市連携 IT 活用コンソーシアムは、平成 25 年 12 月 1 日（日）に東京学芸大学において「教育フォーラム 2013」を開催した。6 回目となる今回のフォーラムは、「ICT を活用した 21 世紀の授業を考える」とサブタイトルが付けられたもので、現職教員、大学学部・大学院学生、教育関係者など約 150 名が参加した。講演プログラムとしては、東京学芸大学の卒業生であり教育工学がご専門の堀田龍也氏（玉川大学教職大学院教授）による基調講演、3 市小学校や本学附属小学校教員による ICT を活用した授業実践報告、本学学生による教育実習での ICT 活用実践報告が行われ、また、ICT に関わる教材・機材などの企業展示も併せて行われた。この「教育フォーラム 2013」のプログラムの中で、文部科学省の平成 25 年度「教員の資質能力向上に係る先導的取組支援事業」として受託した東京学芸大学と 3 市の小学校外国語活動に関する取り組みについての報告も行われた。

ここで報告された取り組みは、東京学芸大学・3市連携 IT 活用コンソーシアムを母体に構成された団体として申請・受託した事業であり、「ICT 活用による小学校英語の授業力向上のための取組 —大学と地域の学校とが連携・協働した教員養成と教員研修—」というテーマである。そこでプログラムにおいては、「コンソーシアム活動報告」として発表された。

この発表に関する記録および当日の発表資料を、以下の資料 8 に掲載した。

（伊藤一郎）

## コンソーシアム活動報告

### 小学校外国語活動 担任を支える ICT

東京学芸大学教授 英語科教育学 粕谷 恭子 氏

本コンソーシアムが今年度取り組んでいる活動である文部科学省の委託事業「ICT 活用による小学校英語の授業力向上のための取組」について報告する。

デジタル教材を使用した授業をしている国内の 2 校を視察する。福岡県太宰府市の学校では、国外の学校との交流に ICT を用いている。また、宮城県仙台市の小学校では、自分よりいい発音を子どもに聞かせたいという考えから、英語をネイティブで聴いてもらえるよう ICT を活用している授業を見学する。

7 月に行った学生対象のアンケートから、教育実習においては、外国語活動は参観のみという学生が多く、実際に授業を実施した学生は非常に少ないことが分かった。本学では、その指導力を育成する授業が選択必修で開設されている。逆に考えると、その授業を履修せずに、指導力を付けることなく、教員になる学生もいるという現状があることになる。また、外国語活動に関する知識は、実習で外国語活動を実施・参観した学生の方が豊富であることも分かった。特に「外国語活動は担任主導で行うことを知っているか」という質問に対しては、授業を実施した学生とそうでない学生の回答に大きな差が見られた。この結果から、外国語活動では、担任の指導力が必要だと感じないまま、現場に立つことがあり得るといことがうかがえる。外国語活動の指導を 1 人で行わなければならない状況をつくれば、教員は指導できるようになっていくだろう。

教員養成課程の英語授業の体験も行う。インターンシップ (60 時間)・ボランティア (定期的なもの)・授業参観 (1 時間単位) の 3 種を設け、それぞれ、1 名、18 名、13 名の学生が参加している。ボランティアに参加した学生の中には、インターンシップへの参加を希望している者もいたが、授業の履修の関係で時間が合わなかったという学生も見られた。今回の体験には、英語選修でない学生も参加している。

3 市教育委員会との協力や教材の貸与・紹介など、先生方に対してのサポートも行っている。先日も国分寺市立第四小学校で、教員研修を実施した。また、指導用教材の開発の一環として、チャンツの CD を作成する。現在学校で用いられている音源が、英語らしいものとは異なったものになっているので、それらの修正を行っている。その他にも、小学校の英語授業支援のための Web サイトを開設する予定である。

担任の先生が外国語活動を指導する強みについて説明する。ALT の先生方は、生徒の状況や達段階等をつかめていない、が一方で担任の先生はそのようなことはないだろう。したがって、学級の状況に応じた適切な題材やテーマを選ぶことができる。子どもが分かるように説明する方法も知っているため、そのような話し方ができるだろう。ALT の英語のシャワーに対し、助けを求める生徒もいるのが現状である。そういった点からも担任が外国語活動を行う強みがある。また、生徒の喜びそうなレクリエーションなど、活動のアイデアを豊富に知っている点も強みである。外国語活動の指導ではそれらの知識が宝の山とも例えられる。

しかし、担任の先生の弱みをどのように補っていくかも考えなくてはならない。中学生レベルの文法書が職員室に1冊あるだけでも大きく変わるように思われる。ALTの人にまとめて質問するというのもひとつの手であると考え。ネット環境があれば動画サイトを利用してよいと考えられる。ICT機器を用いれば、音を録音することもできるし、音源を再生できるようになる。音源については、最近、的確なものが増えてきている。

一つの問題として、「担任の負担をどうやって減らしていくか」ということが挙げられる。インターネット上にはいろいろなソフトウェアや画像、授業のアイデアがあるので、教員の負担を少しでも減らすためにも、それらの資料を使いまわしていくことなどを検討するべきである。

大切なことは、子どもの学びを活かすために、英語教育をどのようにデザインしていくかを、全教員が考えて見直しをするべきである。また、各市の言語教育をどのようにデザインするかについても、各市の教育委員会でしっかり考えてほしい。

東京学芸大学・3市連携IT活用コンソーシアム 活動報告  
**小学校外国語活動 担任を支えるICT**

東京学芸大学  
 粕谷 恭子

2013/12/1 教育フォーラム2013 1

**小学校外国語活動への取り組み**

I. 文部科学省の受託事業「ICT活用による小学校英語の授業力向上のための取組」

1. 現状の調査・分析
2. 教員養成課程学生の英語授業の体験
3. 小学校英語に関する指導力の育成
4. 指導用教材の開発
5. 英語授業支援のためのWebサイトの開設

II. 担任を支えるICT  
 III. まとめ

2013/12/1 教育フォーラム2013 2

**I. 文部科学省の受託事業  
 「ICT活用による小学校英語の  
 授業力向上のための取組」  
 について**

平成25年度 日本教育大学協会研究集会(2013.10.5)発表より

2013/12/1 教育フォーラム2013 3

**1. 現状の調査・分析**

- 国内の2校を視察  
 福岡県太宰府市立太宰府西小学校(11月)  
 宮城県仙台市立大野田小学校(12月)
- 学生に対するアンケート調査(7月実施)
- 教員に対するアンケート調査  
 (9月実施、分析中)  
 - 研修、授業の方法、意見感想、外国語経験

2013/12/1 教育フォーラム2013 4

**学生対象アンケート調査結果**

学生に対するアンケート調査(7月実施)

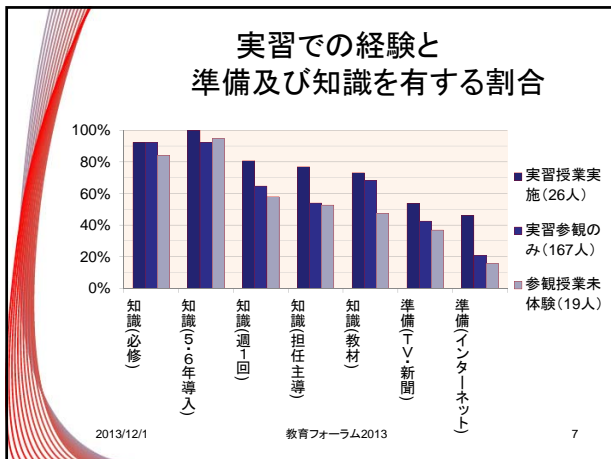
- 調査内容
  - 基礎実習、応用実習で外国語活動授業の実施の有無
  - 基礎実習、応用実習で外国語活動授業の参観の有無
  - 外国語活動に関する知識(必修、学年、回数、担任、教材)
  - 外国語活動に関する経験・準備
- 対象学生  
 東京学芸大学  
 初等教育教員養成課程学生 490名(定員)  
 (定員には幼稚園教員養成 20名を含む)  
 回答者数 212人(小学校教育実習経験者)

2013/12/1 教育フォーラム2013 5

**2回の教育実習での授業体験の偏在**

		基礎実習(3年次)			計
		授業実施	参観のみ	未体験	
応用実習 (4年次)	授業実施	7	9	2	18
	参観のみ	5	73	53	131
	未体験	3	41	19	63
	計	15	123	74	212

2013/12/1 教育フォーラム2013 6



- ### 2. 教員養成課程学生の英語授業の体験
- 協力校
    - －国分寺市立 第四小学校
    - －小平市立 第十四小学校
    - －小金井市立 本町小学校
  - 「学校インターンシップ」(単位認定)1名
  - 「学校ボランティア」18名
  - 「授業参観」13名
- 2013/12/1 教育フォーラム2013 8

- ### 3. 小学校英語に関する指導力の育成
- 3市教育委員会との協力
  - 教材の貸与・紹介
  - 活動アイデアの提供
  - 教員研修の内容
    - －潜在的な指導力の再確認
    - －担任が楽にできる授業の提案
- 2013/12/1 教育フォーラム2013 9

- ### 4. 指導用教材の開発
- チャンツのCD作成
    - Hi, friends!* の内容に沿ったもの
    - 英語らしい音の流れのあるもの
    - 文を聞かせるもの
- ex. **What's your name?**  
How many balls are there?
- 2013/12/1 教育フォーラム2013 10

- ### 4. 指導用教材の開発
- 英語の歌のCD作成  
10曲程度 学校に冊子とCDを配布
- ♪ John Brown's Baby  
♪ This Old Man  
早口言葉 Peter Piper Picked a Peck of Pickled Peppers
- など
- 2013/12/1 教育フォーラム2013 11

- ### 5. 小学校教員の英語授業支援のためのWebサイトの開設
- 具体的な指導場面の映像を提供
    - －附属小学校で撮影(予定)
  - 検証した作成教材を提供
- 2013/12/1 教育フォーラム2013 12

## Ⅱ. 担任を支えるICT

1. 担任の先生方の強み
2. 担任の先生方の弱みを補うために

2013/12/1 教育フォーラム2013 13

### 1. 担任の先生方の強み

- ① 児童理解
  - クラスの児童  
性格、かかえている問題など
  - 発達段階の理解  
各学年にふさわしい活動の選択

2013/12/1 教育フォーラム2013 14

### 1. 担任の先生方の強み

- ② 英語に命を吹き込むための題材選び
  - 単調な音声再生工場にならないように、  
言葉を言霊にするための題材を選ぶ力

Ex. Like を扱う授業  
スポーツ? 歌手? おやつ? 色?

2013/12/1 教育フォーラム2013 15

### 1. 担任の先生方の強み

- ③ 活動のアイデア
  - 学校雑学
  - 他教科の内容
  - 小ネタ など

2013/12/1 教育フォーラム2013 16

### 1. 担任の先生方の強み

- ④ 「子ども語り」
  - 子どもに通じる話し方ができる  
(英語のシャワーとの比較)

語彙の選択、速さ、組み立て、理解確認

2013/12/1 教育フォーラム2013 17

### 2. 担任の先生方の弱みを補うために

- ① 中学生レベルの文法書
  - お古で十分
  - 名詞がらみを重点的に

2013/12/1 教育フォーラム2013 18



2. 担任の先生方の弱みを補うために

② 視聴覚教材(デジタルコンテンツ)

先生が苦手意識を持っている英語の音を代わりに出してくれるもの

- CD、DVD
- インターネット
- デジタル教科書・デジタル教材 など

音の確かな教材を選択する責任

2013/12/1 教育フォーラム2013 19

2. 担任の先生方の弱みを補うために

③ ICT機器

先生が言いたいことを音声化してくれるもの

- 電子黒板
- 音声作成ソフト など

2013/12/1 教育フォーラム2013 20

2. 担任の先生方の弱みを補うために

④ 教材作りの友

- 極力、手を抜く
  - ささまざまなソフトウェア
  - 高速プリンター
  - ポスタープリンター など
- 使いまわす、共有する

2013/12/1 教育フォーラム2013 21

Ⅲ. まとめ

- 「担任の負担感をどうなくすか」がカギ  
= 「ICTの可能性」
- 子どもの学びを生かす指導法
- 教材あれこれ

2013/12/1 教育フォーラム2013 22

ご清聴、ありがとうございました。

2013/12/1 教育フォーラム2013 23

### 7.3 小学校英語教育学会愛知支部セミナーにおける発表

平成26年2月9日（日）に愛知県利多雨大学サテライトキャンパスで開催された「小学校英語教育学会愛知支部セミナー」において本事業についての報告を行った。当学会は小学校英語に関わる研究者と実践者を会員に持ち、県単位での支部活動が行われている。

当日のセミナーのプログラムは、愛知県立大学の池田周氏の研究発表（「外国語活動」での文字および初期読み技能導入に対する教員意識調査 ―小学校と中学校の比較―）、皇学館大学の川村一代氏による実践報告（“We are good friends!” みんなで仲良くnew Momotaro をつくろう！）、愛知県岡崎市立本宿小学校の伊與田美智代氏による実践報告（本宿小学校の英語活動 ～All English・3人で行う授業）がそれぞれ行われ、研究と実践、大学教員と小学校教員というバラエティに富んだ内容豊かなセミナーであった。本事業についての報告に対して参加者から、音声教材の選び方、教員養成の実情、英語教科化での指導者の資質について質問がだされ、活発な意見交換の端緒となった。

本セミナーで報告した内容を資料9に掲載した。

（粕谷恭子）

## 事業報告「大学と地域の連携による教員研修と教員養成」

粕谷恭子 (東京学芸大学)

### 1. 事業の概要

「文部科学省「教員の資質能力向上に係る先導的取組支援事業」

ICT活用による小学校英語の授業力向上のための取組

—大学と地域の学校とが連携・協働した教員養成と教員研修—

### 2. 活動

#### ① 現状の調査・分析と情報収集

- ・大学近隣3市英語教育の実態調査、授業用・教材教具などの情報収集
- ・教員養成段階の学生に対する外国語活動（英語教育）に関する意識調査・分析
- ・英語教育の先進的な取り組みをしている公立小学校の視察・情報収集。

#### ② 教員養成課程学生の英語授業体験

- ・教員養成段階の学生の公立学校等における英語授業見学
- ・教員養成課程学生の英語授業への計画的参画  
学校インターン制度を活用し、学生が協力小学校において、英語の授業を長期的にアシストする。

#### ③ 指導用教材の開発

- ・「チャンツ」の制作  
現行の英語教材を補完し、より活用しやすいものを研究・開発する。特に中学校以降の学習に支障をきたさない英語らしいリズム・イントネーションを保證する「チャンツ」を制作する。
- ・「歌」の音源教材の製作  
円滑な英語コミュニケーション能力を養うため、英語らしいリズム・イントネーションの獲得に有効な「歌」の教材について、指導者にとって教室で使いやすい音源教材を作成し、あわせて歌の楽譜や歌詞をまとめた児童用の教材を制作する。

#### ④ 小学校英語に関する指導力の育成

- ・協力小学校における現職教員研修の実施（開発教材の活用、記録映像撮影等を含む）

- ⑤ 小学校教員の英語授業支援のための Web サイトの開設
  - ・大学の教員等が実際に教室で授業を行い、それを活動ごとの映像として Web で配信し、実際の授業場面を見ることで活動のイメージをつかみ、英語授業への負担感を軽減することを図る。
  - ・開発した教材は共有できるよう Web で公開するとともに、利活用の方法などについて持続的に支援できる体制を作る。
- ⑥ 発表・報告
  - ・本事業による研究・開発の成果について発表することにより、成果を公開する。

### 3. 教材作成

- ① チャンツ
  - ・英語らしい自然な音の流れ
  - ・文によるインプット
- ② 歌
  - ・英語らしい自然な音の流れ
  - ・授業の中では「帯」の扱い

## ICT活用による小学校英語の授業力向上のための取組 運営委員

粕谷 恭子	東京学芸大学人文社会科学系教授（統括責任者）
長谷川 正	東京学芸大学自然科学系教授
伊藤 一郎	東京学芸大学自然科学系准教授
新藤 茂	東京学芸大学教育実践研究支援センター教授
加藤 直樹	東京学芸大学教育実践研究支援センター准教授
鳴海多恵子	東京学芸大学総合教育科学系教授
木村 守	東京学芸大学人文社会科学系准教授
樫山 淳雄	東京学芸大学自然科学系教授
藤原 裕	東京学芸大学教育実践研究支援センター特命教授
平田 勇治	小金井市教育委員会指導主事
仙北谷仁策	小平市教育委員会教育部参事兼統括指導主事
横山 明	小平市教育委員会指導主事
古林 香苗	国分寺市教育委員会指導主事
栗原 正治	東京学芸大学附属世田谷小学校主幹教諭
齊藤 豊	東京学芸大学附属世田谷小学校教諭